

# かわせみ



Hachiōji  
Kawasemikai

## Kawasemi



'90 KIMGIAI

1996. No. 16

目次

	ページ
☆八王子カワセミ会結成10周年記念式典開催	2
☆第8回 定期総会開催	3
☆1995年八王子カワセミ会10大ニュース	6
☆1995年定期カウントのまとめ	7
☆鳥 信	21
☆冬鳥一斉調査について	25
☆1995年浅川流域のイワツバメ営巣調査	26
☆1995年我が家の庭に来る野鳥調査結果	28
☆ヒメアマツバメの動向	30
☆ハクセキレイの集団ねぐら	31
☆片倉城跡公園の巣箱状	32
☆1995年秋のサシバ渡り調査結果	34
☆城山川上流の野鳥調査	36
☆多摩川のツバメのねぐら調査	37
☆清水公園周辺と川口川の野鳥観察記録	38
☆針の木峠を越えるアサギマダラ	39
☆1995年=1年間に観た野鳥の種類数	39
☆ ウォッチング・コーナー	40
◇野鳥を通して学び得たこと	山崎悠一, 久美子
◇赤い鳥を探して(大雪山探鳥記)	
今井達郎、大関 豊、田中英吉、馬場 裕、柚木育子	
山崎悠一、久美子、門口一雄、裕子	
◇両神山登山と探鳥会	桑原文夫
◇鳥たちとふれ合い考えること	甲野 毅
◇友 千 鳥：俳句：	飯島洋子
◇アオバトとの出会い	真野智野
◇安曇野だより	大関 豊
◇駒ヶ根通信	平沢辰夫
☆ 編集後記	56

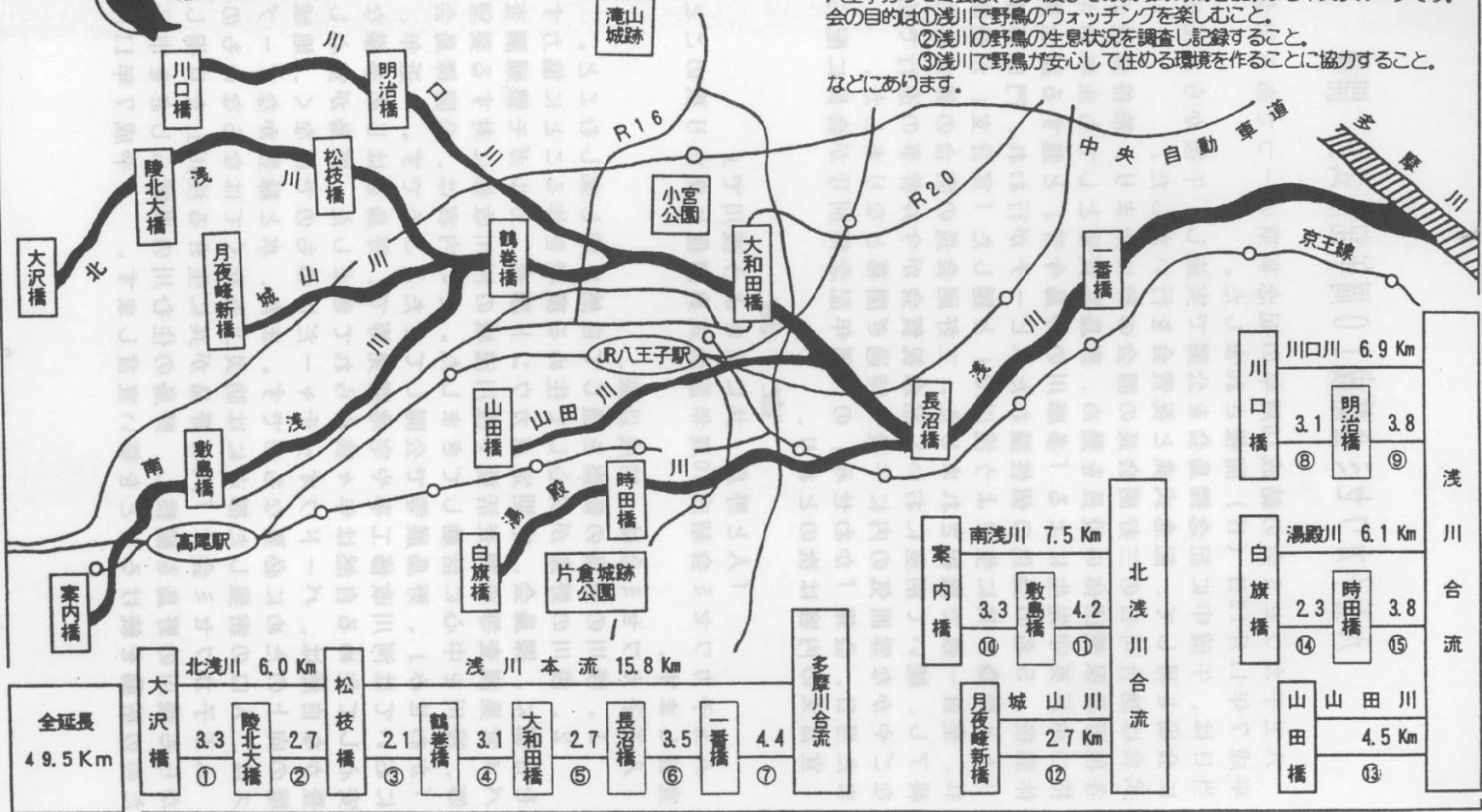


# 八王子カワセミ会の主な活動範囲 位置図



Hachiōji  
Kawasemikai

八王子カワセミ会は、浅川及びその流域の野鳥を観察する市民グループです。  
 会の目的は①浅川で野鳥のウォッチングを楽しむこと。  
 ②浅川の野鳥の生息状況を調査し記録すること。  
 ③浅川で野鳥が安心して住める環境を作ることに協力すること。  
 などにあります。



全延長	49.5 Km
-----	---------

北浅川	6.0 Km
大沢橋	3.3
①	
陵北大橋	2.7
②	

松枝橋	2.1
③	
鶴巻橋	3.1
④	
大和田橋	2.7
⑤	
長沼橋	3.5
⑥	
一番橋	4.4
⑦	

浅川本流 15.8 Km

多摩川合流

南浅川	7.5 Km
案内橋	3.3
⑩	
数島橋	4.2
⑪	

城山川	2.7 Km
⑫	

北浅川合流

川口川	6.9 Km
川口橋	3.1
⑧	
明治橋	3.8
⑨	

湯殿川	6.1 Km
白旗橋	2.3
⑭	
時田橋	3.8
⑮	

浅川合流

山田川	4.5 Km
山田橋	
⑬	

## 八王子カワセミ会結成10周年記念式典 開催

八王子カワセミ会の結成10周年の記念事業の一つである記念式典が、平成7年11月12日（日）開催されました。

当日は、午前中に記念探鳥会を公開で実施し、午後から八王子労政会館に会場を移して、記念式典と祝賀会を行いました。

式典は総合司会の三好副会長の開会の辞に始まり、粕谷会長の挨拶の後各種野鳥保護団体の役員を勤め、野鳥写真家としても永年のキャリアを持つ津戸英守先生による「多摩川の野鳥今昔」と題する記念講演があり休憩後、5名の会員の個性溢れたスピーチが行われ、門口事務局長から「人と野鳥・共に生きよう浅川で」と題した「宣言文」が朗読、発表され、全員一致で採択されました。三好副会長の閉会の辞をもって式典は終了し、続いて別室において記念祝賀会が今井幹事の進行で始められ、なごやかな雰囲気の中に午後7時過ぎ閉幕となりました。

また当日、会報「かわせみ」の10周年記念特別号が会員に配られました宣言文の内容は次のとおり、

### 宣 言

「人と野鳥・共に生きよう浅川で」

八王子カワセミ会結成10周年記念式典開催にあたり次のことを確認し宣言します。

八王子カワセミ会は、結成以来、

1. 浅川の野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと。
2. 浅川の野鳥が安心して住める環境を作ることに協力すること。

を目標に、探鳥会、定期定点カウント調査、カルガモ繁殖調査、イワツバメ営巣調査等の調査活動や浅川流域の河川改修に対する要望書の提出等、浅川を中心に活動してきました。その内容は、公開探鳥会、機関誌「かわせみ」、野鳥展等で公開してきたところです。近年、浅川流域においては河川改修工事や宅地開発等で、野鳥をはじめ多様な生き物が安心して住める自然は年々狭められてきました。野鳥が安心して住める豊かな自然は、バードウォッチャーだけのものではなく、地域の生活環境の向上のために必要なものです。また、水と緑豊かなオープンスペースは、人口の密集した都市には防災上もなくてはならないものです。

八王子カワセミ会は「人と野鳥が共に生きる浅川」を目指して、これからも浅川の野鳥を観察し、野鳥の住む川の素晴らしさを市民に伝えるための活動を続けることを誓い宣言します。 平成7年11月12日

## 第8回 定期総会 開催

平成8年1月14日（日）午後2時から、八王子市の天神町会館において、会員44名が参加し、第8回定期総会を開催しました。

総会は、鈴木章七会員が議長となり、平成7年度の事業報告、会計報告を初め10周年記念事業並びに会計報告が行われ承認されました。

特に、10周年記念事業として、5月26日～28日の野鳥展、11月12日の記念探鳥会、記念式典、会報「カワセミ」特集号の発行など年初に企画した行事がほぼ計画通り消化され、残るは「浅川の野鳥観察記録誌」の編集のみとなりましたが、本年3月にはその集大成が発刊されることとなります。

続いて平成8年度の事業計画案、収支予算案が審議され、いづれも提案通り可決されました。

本年度の新事業として ①平日探鳥会の実施 ②会員個々の野鳥調査活動等の発表勉強会の開催が企画されております。

次に、会の規約の一部改正が提案され承認されました。主な改正点は、会費納入について（1月末を期限とする）、会が推薦する東京都緑の推進委員の選任と会における役割、専任講師の選任と役割を明文化したことです。

最後に本年度は役員の変更期になり、次のとおり幹事が選任されました。

阿江範彦 今井達郎 粕谷和夫 門口一雄 川上 恂 河村道寛 榛沢 務  
藤江 豊 三好恒雄 山崎久美子（以上再任）  
鈴木章七 古山 隆 柚木育子 山崎悠一（以上新任） 計14名

なお、その後の幹事会において次のとおり役職が決まりました。

会 長 粕谷和夫 副会長 藤江 豊， 三好恒雄

・業務分担

事務局長 門口一雄， 会計長 山崎久美子， 会報編集長 三好恒雄，

10周年記念事業担当会計長 河村道寛

会計監査 田中英吉（再任）

東京都緑の推進委員（平成10年3月まで）

粕谷和夫（市長推薦） 三好恒雄，河村洋子，門口裕子（カセミ会推薦）

カワセミ会専任講師

古山 隆 大関 豊 斎藤高昭

・平成8年(1996)度 事業計画

(1) 探鳥会 実施計画……別紙参照

(2) 定地、定点カウント

浅川を中心に16箇所で担当者を決め実施する(詳細は総会議案に掲載)

(3) 各種調査活動

①カモ類等冬鳥一斉カウント (1月14日)

②カルガモ親子繁殖調査 (5～7月)

③イワツバメ営巣調査 (5～7月)

④オオルリ生息数調査 (4～6月)

⑤巣箱調査 (年間、片倉城跡公園)

⑥我が家の庭に来る野鳥調査 (年間、会員の自宅)

⑦秋のサシバの渡り数調査 (9～10月、小仏城山、他団体協力)

⑧城山川改修予定地の野鳥調査

⑨浅川鳥獣生息調査 (1月、6月各3回、東京都からの依頼)

⑩野鳥繁殖状況調査 (5～6月、野鳥の会東京支部調査に参加)

(4) 浅川の鳥信(情報)の収集 (総会議案参照)

(5) 野鳥保護活動、催し物、その他 (総会議案参照)

(6) 浅川の野鳥調査等についての発表会、勉強会の開催(新事業)

上記(2)から(4)までの活動について会員の理解を深めること、並びに会員個々の調査活動を促すことを狙いとし、それぞれの調査結果を発表する場を設け、勉強会を次の通り開催する。

・9月1日(土)13時～17時、八王子労政会館(予定)

当日は外部から講師を招き、野鳥に関する勉強会も併せて行う。

(7) 会報の発行

かわせみ第16号(2月頃) かわせみ第17号(8月頃)

(8) 浅川の写真ライブラリーの充実

(9) 10周年記念事業の記録「数えあげた浅川の野鳥」の発行(3月)

総会終了後、恒例のオークションを行い、売り上げ金¥.69,950-が会に寄付されました。なお、栗原会員から提供された自作の野鳥餌台が人気を集め、ジャンケンの結果、目下自宅新築中の門口事務局長が見事に落札し、続いての新年会は参加者全員和気あいあいの内に午後9時過ぎお開きとなりました。 [文責.三好]



1996 (平成8年) 探鳥会実施予定表

	浅川及び周辺山間・丘陵	遠出並びに平日探鳥会
1	7日 ふれ合橋 = 一番橋 14日 ガン・カモ一斉カウント調査	28日 吉見百穴 6:45 JR八王子
2	11日 (公開) 松江橋 = 陵北大橋	7日 (水) 横浜自然観察の森 25日 多摩湖
3	10日 多摩川滝山下 17日 明王峠	
4	14日 大沢橋 = 小田中央公園 (グリーン・エイフ)	20日 (土) 葛西臨海公園 3日 (木) ふれ合橋 = 一番橋
5	12日 (公開) 小下沢 : オルリ : 19日 高尾蛇滝 (早朝) アカショウビンを捜す会	25日 - 26日 戸隠高原 22日 (水) 奥相模湖 (秋山川)
6	9日 世界環境デー 松枝橋 → 市役所 ← 暁橋	1日 - 2日 富士山麓 ※ 8日 - 9日に変更あり
7	14日 多摩川・浅川合流	20日 - 22日 夏山 ( ) 27日 - 28日 両神山
8	11日 (早朝) 高尾山	25日 多摩川河口
9	8日 一番橋 = 長沼橋 29日 小仏城山 : サシバ他 :	21日 - 22日 白樺峠
10	20日 鶴巻橋 ⇄ 松枝橋	12日 - 13日 上高地 24日 (木) 葛西臨海公園
11	10日 (公開) 多摩川合流 = ふれ合橋	2日 - 4日 伊豆沼 17日 三頭山 8日 (金) 蔭北大橋 = 松枝橋
12	8日 大和田橋 = 長沼橋	31日 大晦日探鳥会

1997 (平成9年)

1月12日 ガン・カモ一斉カウント  
19日 長沼橋 - 長沼公園

2月8日 - 11日 出水・和白 (九州)



## 1995年八王子カワセミ会10大ニュース

1. 「人と野鳥 ともに生きよう 浅川で」の標語制定と宣言  
5月に開催した浅川野鳥展のテーマとしてこの標語を決め、11月に開催した10周年記念式典でこれを本会の今後の活動理念とすることを確認し宣言した。
2. 浅川野鳥展の開催  
5月26日～28日の3日間、JR八王子駅ビルの市民ホールで開催、1,700名を超える一般市民が訪れた。「野鳥観察記録の大マップ・ジオラマ・パネル・鳥の羽根」及び「写真・カービング・彫金等の会員の作品」を展示した。また、豆細工による小鳥のブローチ作りの指導を行った。
3. 10周年記念式典の開催  
11月12日、八王子労政会館で記念式典を行い、合わせて津戸英守氏による「多摩川の野鳥今昔」の講演会を行った。
4. 会員が160名を超える  
94年末、141名の会員が95年末には161名となった。今後は会員の質的向上が望まれる。
5. 会報「かわせみ」10周年記念特集号を発行  
11月、本会の発足以来10年間の活動記録を中心として編集した特集号を発行した。
6. 初の海外探鳥会を実施  
3月18日～21日、3泊4日で台湾探鳥会を行った。10名参加、対中、台北を中心に58種の野鳥を賞鳥した。
7. 東京都から鳥獣調査を依頼される  
東京都知事から浅川の長沼橋～高幡橋間の鳥獣生息調査を依頼され、今後6月と1月に10日置きに各3回づつ調査を実施することになった。
8. 小宮公園探鳥会、視覚障害者探鳥会の支援  
小宮公園管理事務者から支援を依頼され、1月21日及び4月23日の2回行った。今後も毎年1月と4月に依頼される予定である。5月13日、四季の会（谷合侑代表）主催による新緑の高尾山探鳥会を支援した。
9. ベニマシコ、オジロトウネン等希少種の出現  
11月に浅川橋下でベニマシコ、同月に長沼橋下でオジロトウネンを観察した。
10. 日本野鳥の会「鳥と緑の国際センター(旧称「国際緑センター」)建設基金へ募金  
公開探鳥会の時に募金を呼びかけ、その結果15,000円が集まり、これを建設基金として募金した。

## 平成7年定期カウントのまとめ

## 1. 北浅川：大沢橋～陵北大橋

今井達郎I・馬場裕B・馬場百合亜b・関根伸一S・関根光世s

1995年 月*日	1*8	2*4	3*5	4*1	5*3	6*3	7*2	8*5	9*2	10*7	11*4	12*2
開始 時:分	7:30	8:20	8:00	7:55	7:15	8:00	7:30	7:10	7:30	7:00	8:00	8:00
終了 時:分	11:15	12:20	11:30	11:25	10:20	11:30	10:25	10:30	10:30	11:00	12:00	12:25
天候 (前後)	晴	曇	晴	晴	曇小雨	曇	曇小雨	晴	晴曇	曇	晴	晴
調査報告者	I	IB	IM	I	ISs	IBbS	IB	IBS	IB	I	IBbS	IB
040 カウ		9		1								
054 サゴイ						1						
059 コサキ	19	9	12	5	2	1	1	1	2		2	1
087 マカモ												1
088 カカモ	38	19	31	30	21	23	10	22	21	17	28	51
089 コカモ	32	15	5	20	8						17	20
120 ヒ			1							1	1	1
123 材カ		1	1								2	
126 バイカ						1						
145 チョウゲンボウ											1	
149 コシユクイ			2		1	2		2		3	1	
151 キ	1		1	2	5	2	5		1		1	
177 イカチドリ	1	1										1
218 イソキ					2							
296 キンハト	20	15	6	16	19	10	16	12	18	14	17	32
304 トトキス						6	1					
326 カセミ		3		1	2	2			1	1	1	3
331 アウラ					1			1				
339 コウラ		2	2		2	1	6	1	2		3	6
347 ツハメ				4	20	28	24	18	4	2		
349 コシアカツバメ									1			
354 キセキレイ	2	2			6	29	9	15	4	8	9	6
355 ハクセキレイ		4				2	1	1	1	2		9
356 セウロセキレイ	13	19	11	9	12	11	5	7	8	8	22	13
360 ヒメスズイ		1										
367 ヒヨドリ	40	26	6	25	36	61	39	18	24	70	43	58
369 モス	3	3	2			3	1			9	10	6
375 カガラス												1
376 ミソサザイ											1	
386 ナビ		1										
387 ジョウビタビ	1	2	1								8	4
405 ツクミ	13	14	13	2								6
410 ウグイス	2	3	2	5	6	8	5	2			1	5
416 材ヨシキリ									1			
435 イカ					2							4
440 ヤマガラ											3	
441 シジュウカラ	8	24	13	13	13	9	17	9	5	5	11	14
444 メジロ					2	16	4	1		1	9	5
449 林ジョロ	18	19	27	8	5	17	13	3			10	21
455 カラタカ	3	2	2	3								
461 アジ	4	39	20								15	22
464 オシユリン												10
471 カガヒワ	19	130	91	27	10	10	8	2	7		26	14
472 マヒワ				4								
483 ク	1											
486 シマ	2	11	1									1
488 スズメ	67	75	24	45	33	110	34	38	49	146	105	110
493 ムクドリ	11	23	9	20	14	88	26			13	22	
496 カス										2	3	
498 オカ			9		8	4		3	17			
503 ハシホウガラ	6	14	6	9	8	18	8	13	5	14	4	9
504 ハシホウガラ	2	1	3	3	1	1	5	1	2	1	2	8
B ドハト	30	1	6	7	12	65	4	7	45	11	23	28
出現総羽数	365	479	308	258	251	529	242	177	218	328	401	472
種類数	26	29	28	21	26	27	22	21	20	19	30	31

## 2. 北浅川：陵北大橋～松枝橋

河村道寛K・河村洋子k

1995年 月*日	1*8	2*11	3*27	4*8	5*14	6*11	7*9	8*5	9*10	10*7	11*18	12*16
開始 時:分	7:40	8:05	8:50	7:40	7:10	7:30	7:50	7:45	7:20	7:45	8:15	8:10
終了 時:分	10:50	11:15	11:50	10:45	9:45	9:50	10:20	10:25	9:40	10:30	11:15	11:00
天候 (前後)	晴	晴	曇晴	晴	曇	曇晴	小雨	晴	曇	曇	晴	晴
調査報告者	K,k	K,k	k	K,k	K,k	K,k	K,k	K	K,k	K,k	K,k	K,k
005 カイツリ			1	1							2	3
040 ガウ	2	1	1	1								
052 コイキ					2	1	4	1	1			
054 サコイ					2		1					
057 タイキ	8	2	1				2				2	8
059 コサキ	38	21	11	10	6	5	1	1	6	4	29	10
062 オオサキ											1	
087 マカモ		11									2	6
088 カカモ	60	97	31	37	31	30	41	32	42	62	56	50
089 コカモ	58	75	36	36						24	54	92
095 ナカカモ	1											
120 ヒ						3	1		1			
123 オオカ												1
126 ハイカ			1									
129 ノスリ												1
145 ホウケンホウ										1		
149 コンユケイ	1	1	1	3	2	2	1	1			2	1
151 キジ	1		7	7	8	3	4			2		3
177 イカルトトリ	9	4		1	1	2	1	1				
217 キジシキ					1							
218 イノキ	7	5	2	2	3				5	2	1	2
230 タシキ		1		1							1	
245 コカモ											7	2
246 セウロカモ												1
296 キジハト	13	18	5	11	13	8	18	10	12	13	16	7
326 カワセ	8	4	3	3	1	3		2	4	4	7	3
330 アリス		1	1									
331 アケラ				1		1		1				
339 コケラ	2	1	2	1	1	4	2			3	1	3
347 ツハメ			1	6	46	31	44	44	8			
350 イツハメ					5							
354 ヒキレイ	2	1	1	1	1			4	5	9	3	1
355 ハクセキレイ	2	6	6	3						1	5	5
356 セウロセキレイ	14	20	11	8	11	9	8	12	18	16	23	12
363 ヒバリ	4	5	1									
367 ヒトリ	41	33	12	19	24	30	26	30	21	81	33	34
369 モス	8	1	5	12	7	3			1	16	8	3
387 ショウヒタキ	4	2	1	1							2	
405 ツグミ	20	25	9	13								10
410 ウグイス	2	6	6	5	6	3	1	1			8	2
416 オヨシキリ						1			1			
425 セッカ				2	1							
435 イナガ	26	15										
441 シンユウカ	55	72	29	22	12	24	10	17	4	4	12	6
444 メジロ					1		1					
449 オシロ	81	52	12	14	13	9	16	16	1	6	56	43
455 カンタカ	25	6									13	5
461 アオシ	26	15	13	14							6	11
471 カラヒワ	280	108	18	3	3	3	3	4	10	22	35	36
485 イカル						1						
486 シ	21	17	5	3								1
488 スズメ	210	129	79	20	66	79	80	109	85	136	85	160
493 ムクドリ	28	16	27	49	52	48	33	13	60	67	27	27
498 ナガ	1		1		3	7	7		5		20	
503 ハクシカラス	6	12	12	10	14	15	11	1	9	88	13	20
504 ハシトカラス	19	9	6	4	4	3	8	8	4	9	7	7
B トハト	90	1	2	7	5	4	23	1	16	39	11	85
C セキセイインコ									1			
出現総羽数	1,173	793	360	331	345	332	347	309	320	609	548	641
種類数	35	35	35	34	30	27	25	21	23	22	32	34

## 3. 浅川：松枝橋～鶴巻橋

福島弥四郎F, 清水茂S, 小池一男K, 福井司郎H, 中村保一N, 嶋崎太郎s, 杉森夫妻す, 吉村夫妻よ, 吉沢夫妻ヨ

1995年 月*日	1*8	2*11	3*5	4*2	5*3	6*11	7*23	8*27	9*24	10*10	11*19	12*17
開始 時:分	7:00	8:00	8:00	7:00	7:00	7:00	7:00	6:00	6:00	7:00	7:00	7:30
終了 時:分	10:30	11:00	10:30	10:40	9:20	9:30	11:00	9:00	9:30	10:00	10:20	10:40
天候 (前後)	晴	晴	晴	曇	曇小雨	曇晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴
調査報告者	FSKHN	FSKH	FSH	FS	FS	FHK	FSH	FSHヨ	FHYよヨ	FSHよヨ	FSHsす	FH
040 ガワ	9	4	5	4	3			2			50	3
052 コイサキ						6	2	2	1	2		
057 タイサキ	7	5	2	5				1	3	1	8	8
059 コサキ	7	9	4	3	3	5	2	5	6	4	33	7
062 アサキ				1				1			4	
087 マガモ	2	3	6								20	2
088 カカモ	24	30	35	26	26	23	15	12	29	22	25	22
089 コガモ	101	43	18	20	5				6	22	12	49
092 カヨカモ		11	9	6							1	
093 ヒトリガモ												6
095 オカガモ	50	13	8								3	18
120 トビ		3	1	1	1	2	1	1	1		1	2
141 ハヤフサ									1			
149 コシユキ				1				2	1			
151 キン		1	2	1	4	2	1	1			1	1
177 イカサドリ		3		2				3	1	1		
218 イソキ	2	4	3	3	2	1	1	1	2	2	3	1
245 コリカモ	7										11	2
246 セウロカモ		1		2								
296 キンハト	13	19	9	17	13	8	12	10	7	10	11	14
319 ヒメアマツハメ						4		2	2	5	2	
326 カサシ	3	1	1	2				2	2	1	2	
331 アウラ				1								
339 コケラ			1	2	1		2	2				
344 ヒバリ		2		1	4	1						
347 ツハメ				5	24	30	16	4	11	11		
350 イツハメ				3	20	24	21	2		10		
354 キセキレイ					1	1	3	2	3	2		
355 ハクセキレイ	8	6	4				2		3	5	6	7
356 セウロセキレイ	12	10	6	5	3	8	4	4	8	10	4	7
363 ヒバリ		3									1	
367 ヒヨドリ	21	5	5	16	9	11	13	14	4	38	12	12
369 モズ	4	2	2	3	2				3	6	5	3
387 ショウビトキ	1	1	2								5	3
405 ッグミ	23	21	8	15	2						2	15
410 ウグイス	2	2	2	3	5						1	1
416 オオヨシキリ						7	3		1			
425 セッカ					2	3	5	5				2
435 イカガ		5	3	2					3			
441 シンジュウカ	13	19	12	7	5	12	5	7	9	3	6	5
444 シジロ		5									1	
449 林シロ	12	26	10	6				5	2	6	11	8
455 カワタカ	9	14	6								2	
461 アサジ	6	8		1							2	3
464 オオジュリン	1								3	2		2
472 マヒワ		4										
471 カサシ	340	70	90	11	10	2	2	8	10	1	14	17
486 シメ	7	6	5	1							3	
488 スズメ	260	341	150	14	100	150	150	120	200	180	200	100
493 ムクドリ	99	35	63	33	17	54	24	13	97	150	25	30
498 オカガ						2	1	13				
503 ハシホトガラス	1	8	7	3	2	5	2	3	4	5	16	5
504 ハシホトガラス	2	3	3	5	3		6		5	11	12	11
A アヒル									2			
B トハト	47	46	10	2		52	8	60	75	80	120	26
出現総羽数	1,093	792	492	233	267	413	304	305	505	589	635	392
種類数	30	38	32	36	25	23	25	29	31	25	36	31

## 4. 浅川：鶴巻橋～大和田橋

榛沢努H

1995年 月*日	1*31	2*25	3*31	4*29	5*24	6*30	7*29	8*30	9*29	10*30	11*27	12*26
開始 時:分	8:30	8:20	8:10	8:20	8:20	8:15	8:00	8:00	8:15	8:15	8:20	8:30
終了 時:分	10:55	11:10	11:00	10:50	10:55	10:50	11:40	10:45	10:50	11:20	11:15	11:00
天候 (前後)	晴	曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	薄曇	晴	晴	晴
調査報告者	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H
005 カイツリ	1	1										
040 カウ	3	5	4	2	3	1				8	5	3
052 コイサキ						4						
054 サコイ					1	1	2	2				
057 タイサキ	5	4	2	2	2	3		2	3	3	13	6
059 コサキ	11	9	9	5	7	8	6	11	9	12	27	8
062 アサキ												1
087 マカモ										2		2
088 カカモ	133	168	113	103	73	81	91	108	175	152	125	148
089 コカモ	103	153	115	115					51	135	120	73
093 ヒトリカモ	86	52	72							6	7	45
095 オカカモ	132	174	5							96	70	115
120 ヒ	2	2	1	1	1	1	1	1	3	1	1	4
151 キシ		2	1	2	2	3	1			1		2
167 ハン										1		
177 イカルト	2	2	3				2					2
218 イバキ	1	1	4	2	1	1	2	1	1	1	2	
245 コリカモ	18									11	220	125
246 セグロカモ	1	4	1									
296 キシバト	13	19	4	17	12	13	10	10	14	8	3	6
319 ヒメマツハメ				1								
326 カセミ	2				1	1	1	1				1
339 コガラ	1						1					
344 ヒバリ		2	3	4	2	2						
347 ツハメ				38	16	21	21	6	5			
350 イウツハメ				12	8	9	4					
354 キセキレイ		1	1	1								
355 ハクセキレイ	8	11	9	5	2	3	1	1	6	12	8	11
356 セグロセキレイ	12	17	8	3	5	4	1	2	3	5		7
363 ヒバリ	2	4									2	3
367 ヒヨトリ	3	8	5	6	13	8	11	3	7	16	3	5
369 モズ	1	1	1						1	2	2	
387 ショウヒタキ	2	1									1	
405 ツクミ	7	14	14	17							2	
416 オオシキリ					12	11						
425 セッカ				1	2	2	4	1				
441 シンユウカラ	3	1		2	2	1	3	2	2	2	2	
444 シンロ		3										
449 オオシロ	5	10	7									
455 カシラタカ	2				8							
461 アオシ	1	1									1	1
471 カササギ	70	60	18	16		6	5		26	17	25	
488 スズメ	140	180	130	135	125	130	80	120	170	170	170	195
493 ムクドリ	62	75	105	62	60	54	10	12	12	15		4
498 オカガ							6	3	2	17	20	
503 ハシホトガラス	20	35	41	11	28	25	7	13	16	11	8	8
504 ハシトガラス	2	7	6	7	3	2	2	3	3	4	6	2
A アヒル	2	1			1				2	2	1	
B トビ	135	160	90	125	145	158	75	98	160	150	130	158
出現総羽数	991	1188	772	695	535	553	347	400	671	860	974	935
種類数	34	34	27	26	26	28	24	20	21	27	26	25



5. 浅川：大和田橋～長沼橋

湯原直彦Y, 湯原ひろみy, 細谷修一H

1995年 月*日	1*8	2*18	3*19	4*15	5*27	6*17	7*30	8*19	9*23	10*29	11*26	12*31
開始 時:分	8:00	8:30	8:00	8:30	8:00	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30
終了 時:分	13:00	12:30	11:30	12:30	11:30	12:00	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30
天候 (前後)	晴	晴	曇雨	晴	晴	曇	晴	晴	曇晴	曇	晴	晴
調査報告者	YyH	Yy	Y	Yy	y	Yy	Yy	Yy	Yy	Yy	Yy	Y
040 カワ	13	4	17	7	6	1	1			1	13	10
052 コイサキ		2			25	27	12	7	1			
057 タイサキ	12	4	3							3	9	5
058 チュウサキ								1				
059 コサキ	12	2	8	16	5	4	1	5	10	8	54	14
062 アサキ		2	1						1	7	4	3
067 マカモ										2		
088 カカモ	44	37	28	41	38	47	63	20	57	47	23	44
089 コカモ	291	234	67	159					61	159	102	211
092 カサカモ		2										5
093 ヒドリカモ	82	45	27	7						45	27	46
095 オカカモ	116	161	5						2	5	9	83
097 バシロカモ	35	28	10							3	9	41
099 杉ハシロ			1									
115 ミアサキ		1										
120 ヒ	2	2		1			2		1	2	3	2
141 ハヤフサ											1	
145 チョウゲンソウ	2	1	2			3	1		1	1	1	4
149 コシユケイ				1								
151 キジ			1	3	3						1	
176 コフトリ			1	1								
177 イカルチドリ	2	2	1			1	14	27	16	5		3
183 ムナグロ								2				
186 タグリ												2
196 ハマシキ			15									
217 キアシキ					6			12				
218 イシキ	4	1	4	8	7	5	1	2	4	3		1
230 タキ						1						
245 コリカモ	65	11								2	39	69
246 セグロカモ	3	2	1								1	
296 キシハト	33	9	12	14	15	8	7	5	9	14	8	18
326 カセ	1					1	1				1	1
339 コガラ			3		3			2	1		2	1
344 ヒバリ	2	2	1	4						3		1
347 ツハメ				15	14	16	32	21	15			
350 イワツハメ				9	13	7	6					
354 キセキレイ	3	2	2			2	1			3	2	
355 ハクセキレイ	18	11	11	8		2	3		6	28	14	19
356 セグロセキレイ	15	6	8	4	2	3	1	3	3	17	7	5
363 タヒバリ	8	11	8	4						9	2	11
367 ヒヨドリ	21	8	5	13	21	13	5	3	10	14	15	9
369 モス	6	5	2	1			1		5	6	4	3
387 ジョウビタキ	5	4									1	1
388 ヒタキ										1		
405 ツグミ	32	27	16	20							1	16
410 ウグイス	5	2	1								1	
416 オオソバ					3	3	1					
425 セッカ				2	5	7	4	3	1	1		1
441 シジュウカラ	14	16	10	10	1	15	6	4	7	5	12	5
444 メジロ	2	8			1							
449 林シロ	22	28	10	7						7	14	25
461 アオジ	8	7	8	10								5
471 カラヒワ	82	41	21	27	7	35	8	15	17	99	22	46
486 シメ	5	3		1							1	
488 スズメ	126	121	90	90	132	73	90	90	167	277	250	244
493 ムクドリ	68	74	19	49	33	36	2	13	63	23	49	10
498 オカ					1	3	12	5	10		7	
503 ハホコチカラス	13	13	7	13	4	9	8	4	9	19	12	9
504 ハクビタカラス	32	10	19	35	9	11	7	5	36	50	76	18
マカモ										1		
B トハト	56	54	50	69	18	69	25	15	37	89	31	41
出現総羽数	1,265	1,003	495	649	372	402	315	264	650	960	828	1,032
種類数	38	40	37	31	24	26	27	22	26	35	37	37

## 6. 浅川：長沼橋～一番橋

山崎悠一Y, 山崎久美子y, 渡嘉敷敏子T, 熊坂政晃K, 丸山二三夫M, 藤江豊F

1995年 月*日	1*8	2*19	3*21	4*8	5*13	6*18	7*2	8*14	9*15	10*10	11*5	12*9
開始 時:分	8:00	8:00	7:35	8:10	15:10	6:00	6:30	5:30	6:30	9:00	8:30	7:30
終了 時:分	11:20	11:45	13:30	13:30	17:45	10:00	11:30	9:40	11:30	12:30	13:00	12:30
天候 (前後)	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴
調査報告者	YyTKM	Yy	y	Yy	Yy	Yy	Yy	Yy	Yy	YyF	Yy	Yy
005 ガツリ												1
040 カウ	13	2	18	5					2	3	3	2
052 コイサキ	6	11	3			1	2	2			1	10
057 タイサキ	5	3	4				2	1	1	1		7
059 コサキ	7	4	5	3	2		7	6	12	13	35	7
062 アサキ	3	1								1		1
069 クトキ						1			1			
088 カカモ	40	90	37	60	42	36	76	90	77	82	57	66
089 コカモ	175	275	122	137	5				9	75	155	153
092 村ヨシカモ		2										
093 ヒトリカモ	75	67	57	50						19	72	75
095 オカカモ	65	85	4							4	8	23
097 ハシロカモ	13	33	35	4						2	6	6
120 ヒ			1							1		1
145 チョウノホウ										3		
149 コシユイ				1								
151 キジ						2						
160 クケ			1									
176 コサリ				3	1	6	10					
177 イカサリ	5	2	1	2	1			2	5	1		
183 ムナク								6				
196 ハマキ					13							
217 キアシキ					5			3	1			
218 イノキ	2	2	4	9	6	1	5	8	6	2	5	1
245 コリカモ	90			1							80	51
246 セグロカモ	3		1	1								6
296 キジハト	11	7	11	13	12	10	23	19	8	13	5	5
326 カサシ			1	1		2			1	1	2	3
339 コケラ				3		2	1		1			
344 ヒバリ	3		5	3	1	2						
347 ツバメ			1	6	44	18	91	23	14			
349 コシアカツバメ										5		
350 イツバメ			5	16	11	25	51	3				
354 キセキレイ	2	3	44	2	1		2	1	1	1	2	1
355 ハウセキレイ	18	17	18	11	8	3	2	15	14	13	14	18
356 セグロセキレイ	4	11	4	3	2	1	2	3	10	5	6	8
363 ヒバリ	9	13	5	3							1	2
367 ヒトリ	19	8	18	17	3	18	17	12	7	23	16	8
369 モス	4	2	9	7					2	7	4	2
387 ショウビタキ	1		1								3	
405 ツクミ	12	24	7	7								2
410 ウグイス			1				1					
416 オオヨシキリ						1			1			
425 セッカ	1			2	6	3	5	5				
441 シシユウカラ	6	9	5	4	2	7	20	2	4	5	2	
444 ムシロ		2		2								
449 ホオジロ	10	21	4					1	1	2	2	5
455 カワタカ	2											1
461 アオジ	1	8	7	6							2	2
471 カワセウ	70	22	25	13	7	13	13	14	25	18	12	4
486 シメ			1	1								
488 スズメ	100	80	70	60	70	103	120	80	408	240	330	160
493 ムクドリ	30	28	41	31	47	144	79	32	44	26	40	5
498 オナガ	1	3				3			2			
503 ハホウソウガラス	15	13	9	7	10	11	15	10	20	11	9	28
504 ハアトガラス			19						2	1	1	1
A アヒル	1	1	3	2	1	2	3	1	3	1	3	3
B トハト	60	40	120	75	23	55	65	115	179	60	60	95
セキセイインコ									1			
出現総羽数	882	889	727	571	323	469	612	454	862	639	936	763
種類数	36	32	39	36	24	25	23	24	30	30	29	34

7. 浅川：一番橋～多摩川合流

95定期力.XLS

門口一雄,門口裕子,馬場裕,馬場百合亜b,阿江範彦A,柚木鎮夫Y,柚木育子y,今井達郎J

1995年	月	日	1*8	2*11	3*12	4*8	5*21	6*18	7*2	8*12	9*2	10*1	11*4	12*3
開始	時	分	8:00	8:10	7:45	7:50	6:30	6:10	8:00	6:40	6:20	6:40	8:00	7:40
終了	時	分	12:00	11:50	11:50	11:50	10:25	10:30	12:30	10:00	10:30	11:00	12:00	12:00
大候	(前後)		晴	晴	晴	晴	曇	晴	曇	曇	晴	曇	晴	晴
調査報告者			bba	kkTy	kkTyI	kk	kk	kk	曇小雨 k	曇 k	曇 k	曇 kk	曇 k	曇 kk
005	がかり			1										
040	がわ	26	11	8	9	8	5					4	5	93
052	コイ特	10	7	5	4	1	3	3	6	5	1	4	4	7
054	サコイ								1	1				
057	タコイ特	8	4	5	1	1	2	4	5	5	2	2	4	
059	コ特	41	21	16	11	1	4	5	17	17	5	23	82	
062	ア特	4	5	5		1	1		2	2	2	1	2	
069	コ特				1	1	1						1	
087	カモ	14	12	6							2	2	6	
088	加カモ	89	98	87	110	67	31	52	53	48	51	42	55	
089	カモ	368	320	297	279							136	258	264
092	加カモ	2												
093	ヒカカモ	62	111	90	85						1	66	80	
095	加カモ	126	97	150								6	40	
097	ハカカモ	22	13	28	2	1		1				2	4	
115	ミコイ	5	6	1										
120	ヒ		2	2	1	2	1	1	1	2	1	3	3	
123	材カ											1		
145	チカカモ	1		2							3	3		
149	コシカ			2			4	2						
151	サ				2	6	4	3					1	1
167	ハソ											1		
176	コ特				2	5	4	2	2	2	2	1		
177	加カモ	26	6	5	7	3	7		14	5	7	8	18	
183	カカ								47	66				
196	ハカモ	15	15	2	41	1								1
214	カカ						18			1				
217	サソキ								15					
218	イカ	7	2	5	9	9	11	12	17	9	17	8	5	
230	カ		4	1	2						8		1	
245	コカモ	55	7										45	70
246	ヒカモ	6	4	5	2									2
250	カモ	1												
296	サカモ	35	16	15	10	17	10	17	12	17	24	10	12	
326	カカ	3	1	1	2	1		1	2	2	5	5	2	
331	アカラ	1												
339	カラ	2		1	3		4	5					2	1
344	ヒバリ	4	1	13	17	15	9	7					3	
347	カメ				5	50	50	79	55	24	7			
349	コカカメ							1		2				
350	アカカメ				30	30	48	29	4					
354	ササキ	7	1	2				2	1	1	9	3	1	
355	ハササキ	40	16	15	9		3	4	9	8	8	31	31	
356	ヒカササキ	46	6	13	5	2	4	7	19	12	17	10	16	
363	ヒバリ	13	15	9	2							3	11	
367	ヒドリ	81	13	3	20	11	23	14	12	4	3	23	25	
368	カモ							1						
369	カモ	10	4	4	4	1					13	7	4	
387	ショウカ	5	3									2	2	
405	カミ	25	20	25	12								3	
410	ウカ	2	1	1	2								1	1
415	コシカ						1							
416	材カ						3	4	2			1		
425	セカ			2		26	20	29	9	4	1			
435	イカ											6		
441	コシカ	36	35	16	15	2	3	20	2					11
444	カ	4			2		2					2		
449	サシロ	33	29	13	2	8	6	7	7	3	4	3	4	
455	ガタカ		2											
461	アソ	20	15	11	6								3	5
471	カカ	110	25	10	7	5	11	32	2	18	90	70	14	
472	カ				10									
486	カ	3	3	3	2									
488	カ	404	400	150	70	180	119	185	180	720	460	490	458	
493	カカ	89	21	65	55	50	34	47	14	19	44	15	25	
498	カカ					4	4	2		14	16	10	4	
503	ハカカ	22	22	25	30	33	18	39	25	38	19	14	24	
504	ハカカ	15	8	3	4	10	5	5	4	6	9	3	6	
ボト	ト	189	70	130	80	75	84	50	88	50	21	30	102	
出現総羽数		2,065	1,473	1,252	972	648	540	670	626	1,117	993	1,223	1,501	
種類数		45	43	43	42	34	34	33	30	29	34	40	42	

## 8. 川口川：川口橋～明治橋

粕谷和夫K, 鈴木章七S, 川戸恵一カ, 井手龍世I, 古山隆H, 三好恒雄M, 杉森頼二す, 杉森ユリス

1995年 月*日	1*7	2*11	3*11	4*8	5*20	6*17	7*15	8*12	9*28	10*14	11*11	12*9
開始 時：分	8:10	8:00	8:00	7:00	7:00	7:00	7:00	7:00	6:00	7:00	7:00	7:00
終了 時：分	10:50	11:10	11:40	10:10	11:10	10:30	10:30	10:05	8:00	11:15	11:9	10:15
天候 (前後)	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴
調査報告者	K	KHSカ	KS	KSHI	KSカI	KSカ	KSカ	KSカ	M	KSI	KSカISs	KSカすス
040 カウ			1									
052 コイサキ		1	1			5	1	1				
057 タイサキ		2										
059 コサキ	5	7	1	3	1	1	2	4	3	6	4	3
062 アサキ		1						1			1	
087 マカモ			2									2
088 カカモ	40	55	60	35	16	32	60	35	52	40	55	50
089 コカモ	15	40	35	40					6	30	65	35
093 ヒトリカモ										2		
095 オカカモ			4									
120 ヒ				1			2					
123 オオカ					1							
129 ノスリ		1										
145 チョウノホウ					1							1
149 コシユクイ							1					
160 クイナ											1	
296 キジハト	10	20	20	20	30	10	15	25	21	25	30	5
304 ホトキス						1						
326 カサヒ	1			2		1	1	1	2	3	4	5
339 コガラ		2	1	1		4			1	1	1	
347 ツバメ				1	30	35	30	30				
354 キセキレイ	8	1	1	6			3	1	3	5	10	1
355 ハウセキレイ	10	15	5	3	3	2	1		2	8	15	10
356 セウロセキレイ	20	20	15	8	6	3	7	10	16	8	20	16
360 ヒンスイ			2	1								
363 ヒバリ	5	2										
367 ヒトトリ	40	20	20	20	50	30	20	20	31	130	32	25
369 モズ	5	5	1	2	1				4	7	6	1
387 ショウビトキ	1		1	1							4	1
400 アカハラ		1										
405 ツグミ	10	25	5	4							1	1
410 ウグイス	5			4	4	3	1		2		6	
435 エカ									3			
441 シジュウカラ	10	7	10	5	20	10	8	6	14	8	10	2
444 メジロ	10	2		10	10	6	5	3	6	4	10	
449 ホシノロ	5											
455 カラタカ		1										2
461 アオジ	20	20	15	10							15	12
471 カラヒク	30	15	10	4	3	4	1	2	3	20	18	50
486 シメ	1	5										
488 スズメ	70	60	70	40	130	80	25	50	160	95	170	190
493 ムクドリ	70	55	60	20	35	50	3	65	23	40	50	20
496 カス									4	1	1	
498 オカ		10	1		15	3		40		10	40	20
503 ハシホシガラ	20	15	30	8	13	10	10	6	10	10	10	15
504 ハシボシガラ	30	6	15	5	3	10	7	5	5	1	10	5
A アヒル	2	2	2	2	1	1	1	3	3	3	3	3
B トハト	15	5		8	50	8	36	30	12	3	10	50
a マカモ			1								1	
b アカモ				1								
出現総羽数	458	421	389	265	423	309	240	338	386	460	603	525
種類数	26	30	27	28	21	22	22	20	23	23	29	25

## 9. 湯殿川：白旗橋～時田橋

三富恒男M, 三富智頭子m

1995年 月*日	1*27	2*24	3*15	4*22	5*28	6*21	7*25	8*24	9*25	10*27	11*25	12*20
開始 時:分	8:00	7:30	8:00	7:30	4:30	6:00	5:00	6:00	6:00	7:30	8:00	8:00
終了 時:分	11:30	11:30	12:00	11:00	7:00	10:00	7:30	9:00	10:30	10:30	11:00	12:00
天候 (前後)	晴	晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴
調査報告者	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm	Mm
040 ガウ	1	2	2								2	1
052 コイサキ		1										
057 タイサキ			1								1	
059 コサキ	6	3	2	2	2	1	1	1	1	3	4	3
087 マカモ			2									
088 カカモ	43	55	48	19	23	33	67	49	72	34	38	41
089 コカモ	46	50	53	42					22	64	78	70
095 ナカカモ	10	10	4							20	64	43
120 ヒ									1		1	
149 コシユケイ		1	1		1	1	1	1		1		
151 キジ		1			1							1
176 コトトリ					2	2						
177 イカルトトリ	1											1
218 イノキ										2		
245 コリカモ												1
246 セウロカモ	1											
296 キンハト	6	15	7	5	12	10	10	10	14	2	8	9
302 カウク					1	1						
326 カセミ							1					
339 コケラ			1									
347 ツハメ					8	11	32	7	13			
350 イワツハメ				4	4							
354 キセキレイ		2	1	1	2	1	2	1	1	5	6	2
355 ハウセキレイ	12	10	14	3	5	3	3	4	3	15	11	11
356 セウロセキレイ	11	6	9	5	5	2	3	2	3	3	5	5
363 ヒハトリ	1											
367 ヒヨトリ	6	7	14	2	11	8	6	4	6	6	10	8
369 モス		1							7	3	1	
387 ショウビト												2
405 ツグミ	10	10	6	5							3	1
410 ウグイス					1		1					
441 ショウカラ			1		1	1						
444 シロ					1							
449 赤シロ	3			2				2				
455 ガラタカ											1	
471 カネワ		5		4					3			30
486 シメ	1	1										
488 スズメ	80	100	50	60	35	21	40	45	120	60	100	80
493 ムクドリ	40	21	18		25	20	15	8		5	10	33
498 ナカ	1	5		1						1		3
503 ハシホシカラ	11	11	7	5	4	13	3	7	10	6	21	14
504 ハシトカラ								3		65	3	4
B トハト	24	5	12	4		16		11	4	2	6	21
出現総羽数	314	322	253	164	144	144	186	155	280	297	373	384
種類数	20	22	20	16	19	16	15	15	15	18	20	22



## 10. 多摩川：滝山城跡下(三好恒雄M)

1995年 月*日	1*28	2*24	3*29	4*27	5*31	6*29	7*27	8*30	9*30	10*30	11*28	12*23
開始 時:分	7:20	7:10	6:15	6:00	6:10	6:20	5:30	6:00	6:30	6:40	7:10	7:25
終了 時:分	10:30	9:40	9:00	8:30	8:40	9:00	8:20	9:00	10:00	9:40	10:00	10:00
大候 (前後)	晴	晴	曇	晴	曇	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴
調査報告者	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M	M
005 カイツリ	15	11	12	6	7	9	1	2	3	17	12	11
040 ガク	5	54	27	7	3				17	2	1	3
052 コイサキ					2	2	2				1	
054 サコイ					2	2	3					
057 タイサキ		4	4	1	2	1	2	4	3	1	1	2
059 コサキ	6	24	12	6	8	3	16	6	2	3	43	13
062 オサキ	9	9	4	2		1	2	3	5	8	4	7
079 コアワチヨリ				1								
088 カカモ			8	22	18	18	9	5	15	5	2	17
089 コカモ		3	28	10						2	9	
099 新ハツロ												
120 ヒ	2	1	1	1	2	1		1	1	1	2	
123 オサキ	1											
126 ハイサキ									1			
129 ノスリ		1		1								1
145 ナウケツネリ										1		
149 コシユタイ		1	4	4	2	3	2	3	1	1	2	2
151 キン			3	3	3	1	1	1		1		2
160 クケ				1								
167 バン							1		1			
176 コサリ			2	2	2	1		6				
177 イカサトリ	7	3	6	3		1	2	2		3	6	6
181 オノロウネン	1											1
196 ハマシキ	16							8				
214 クサキ	2	2	2							1		
217 キンサキ							4	1				
218 イシキ	1	1	5	1	5		3	7	1	2	1	2
245 ムカモ	5		6	8						5	29	44
246 セウロカモ	1	1	2									
296 キンハト	13	12	12	14	21	16	6	16	17	11	12	8
302 カッコ					1							
304 新トキス						1						
319 ヒメマツハメ			3						2			
320 マツハメ			1						1			
326 ガサモ	3		2	2	4	1	5	2	2		3	4
336 アガラ		1	2									
339 コガラ		1		1	1	2	2		1		1	1
344 ヒバリ			2	2								
346 ショウトウツハメ					2	2		8	4			
347 ツハメ			15	2	25	37	43	22	10			
350 イツハメ			6			6						
354 セキレイ				2	2	5	6	2	6	6		
355 ハクセキレイ	8	3	13	2	3	7	2	6	15	16	11	7
356 セウロセキレイ	23	12	22	8	11	28	23	26	25	37	28	23
363 タヒバリ	2	8	10						17	7	7	6
367 ヒトリ	18	3	6	28	38	32	39	17	28	12	22	23
369 モス	3	3		3	2	2	1	2	5	4	3	4
387 ショウヒタキ			1							3	2	
405 ツクミ	2	8	3	7							8	10
410 ウクイ	1		5	6	5	6	5	2	2	3	3	2
416 オオヨシリ				1	10	6	3	2				
422 センタムシクイ					1							
425 セッカ				3	8	5	5	3	1		1	
441 ショウカガ	12	8	6	6	6	6	2	4	4	5	5	2
444 マシロ	2	2										
449 新シロ	21	16	16	22	27	23	23	11	1	16	15	26
455 カシタカ	8	2										1
461 アソ	17	11	6	8						8	10	14
464 オオジュリン											4	4
471 ガラヒワ	17	6	2	2	4	8		32	4	8	33	42
486 シ	4	2	1									
488 ススメ	30	20	30	30	30	45	40	30	40	50	60	80
493 ムクドリ	4	10	28	23	31	22	21	12	40	3		2
496 カス												6
498 オカ			20	1	1					8		35
503 ハシカラス	28	31	23	43	11	27	23	16	50	28	31	21
504 ハシトカラス	9	6	8	27	6	8	17	8	22	17	13	13
A アヒル										5	4	4
B トハト	25	15	6				25			30		30
X カヒヨウ								1				
不明鳥											2	
出現総羽数	321	295	375	322	302	332	339	271	330	344	391	479
種別数	34	34	42	40	33	34	32	33	32	37	35	37

## 11.多摩川：浅川合流付近

阿江範彦A、柚木鎮夫Y、柚木育子y

1996年 月*日	1*21	2*18	3*9	4*8	5*27	6*11	7*15	8*19	9*23	10*14	11*19	12*16
開始 時:分	7:30	8:00	9:00	7:30	7:00	8:00	7:00	6:00	8:00	8:20	8:00	9:30
終了 時:分	10:30	10:30	11:00	10:00	9:00	10:30	9:00	8:00	10:00	10:30	10:00	11:30
天候 (前後)	晴	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴
調査報告者	A	Y	A	Y	A	Y	A	Yy	A	Yy	A	Yy
005 ガツリ	8	10	5	6			2		3		2	6
040 カウ	14	18	6	8		2	10	2		55	13	85
052 コイサキ							1	1				
054 サコイ					2	2		1	4			
056 アサキ						1						
057 タイサキ	1	3		1		2	2	1	2	4		1
059 コサキ	4	18	7	6	2	1	5	7	4	15	3	43
062 アサキ		2	2				3		4	2		
080 オハクチョウ												1
087 マカモ									2			
088 カカモ	37	25	5	32	12	17	15	37	35	25	15	75
089 コカモ	14			15					4	49	26	4
092 カサカモ		5										
093 ヒトリカモ	30	5	10	11					2	11	35	
095 オカカモ		1	4								24	
097 ハシロカモ				8						2		
115 ミアサ		1									1	
120 ヒ	2	2	1		1	1	1		3	1	1	2
129 ノスリ			1									
145 チョウソウ												1
149 コジュイ								1				
151 キジ					3	1	1		1	1	1	
167 ハン								2				
176 コトトリ							1					
177 イカルトトリ	6	2	2	2					1		2	2
196 ハマシキ											120	
218 イナギ	1	2		3			1	2	2	1	2	2
245 コリカモ	6									1	5	4
246 セウロカモ		1		5								2
296 キジハト	15	5	5	12	20	5	6	10	7	3	17	3
302 カッコウ						1						
326 カサシ	1	1	1	1	1		3	1	4	2		1
339 コクラ	1		2		1							
344 ヒバリ		1	6	4	12	3			2	3	5	
347 ツバメ					5	12	30	10	20			
349 コサカハメ									1			
350 イワハメ							3					
354 キセキレイ										2	1	
355 ハクセキレイ	20	13	20	7	3	3	2	3		5	7	7
356 セウロセキレイ	14	7	2	2		1		1	4	2	1	1
363 ヒバリ	7	6	10	7								4
367 ヒヨトリ	35	5	3	25	7	3	5	5		133	20	3
369 モズ	2	1		3		1	4	2	6	6	5	
387 ショウビトキ	1											1
405 ツグミ	4	14	10	32								13
410 ウグイス	1	1		1							1	
416 オヨシキリ					6	4	6					
425 セッカ					10	5	5	5				
441 シジュウカラ	15	8	10	12	5	7	10	10	8	7	2	5
444 メジロ										1		
449 萩シロ	37	22	20	22	17	9	20	4		9	50	10
455 カシラカ	10		5								3	2
461 アオシ	3	4	3	2								1
471 カサシ	70	30	60	5	10	3	10	7	5	13	20	
486 シメ	4		1									
488 スズメ	250	25	70	25	30	40	15	10	30	130	30	65
493 ムクドリ	55	19	20	33	20	60	40	20	70	7	13	
498 オナカ	10					10			6			
503 ハシホシガラ	15	15	25	10	7	15	27	5	24	13	3	7
504 ハシホシガラ	3	6	1	1		2	1		2	2	1	
A アヒル										2		2
B トハト			/	15	10	28	25	65	20	12	30	30
出現総羽数	696	278	324	316	184	232	251	212	276	520	459	383
種類数	33	32	30	30	21	25	28	24	28	31	31	29

## 12. 小宮公園

田中英吉T, 田中清子t

1995年 月*日	1*30	2*27	3*31	4*29	5*31	7*2	7*31	8*26	9*30	10*31	11*29	12*30
開始 時;分	8:30	8:30	8:20	8:15	7:30	6:50	6:50	7:30	7:15	8:15	8:25	8:35
終了 時;分	11:45	11:35	11:05	11:20	10:10	9:00	9:00	9:50	9:40	10:45	11:30	10:40
天候 (前後)	晴	晴	晴	曇	曇	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴
調査報告者	Tt	Tt	Tt	Tt	Tt	Tt	Tt	Tt	T	Tt	Tt	T
088 カカモ			2	3	4					2	15	
149 コジユケイ		3		2	3	1	2	1	1			
151 キシ			2	4	1	1	1		4			
296 キジハト	6	12	8	9		4	1	7	3	3	5	8
331 アオガラ	1											
339 コガラ	8	5	11	1	7	6	1	1	2	1	4	5
344 ヒバリ				1	1							
347 ツバメ				1		9	1	5				
355 ハクセキレイ	1											
367 ヒヨドリ	7	10	8	21	4	6	14	11	7	18	15	24
369 モス	1								3	1		1
386 黒ビタキ	1											
387 ショウビトキ										1		
402 シロハラ	1											
405 ユキミ	7	10	7									8
410 ウグイス				2		1						1
425 セッカ					1	1	2					
435 イナガ			3									6
440 ヤマガラ	22	2										
441 シシユウカ	49	29	19	6	18	23	9	2	8	9	23	11
444 メジロ		2		1	2		3			9	14	9
449 林シロ	8		7	4				1		3	2	2
455 カシラタケ	31	3	16									
461 アオシ	1	1										1
471 カラビ		10	16	3	1	2		1				
485 イカル					1							1
486 シメ	3											1
488 スズメ	107	81	70	10	47	122	21	4	4	15	13	26
493 ムクドリ	3	8	24	26	3	17	49		1	13		19
498 オカ					2					22		
503 ハシホトカリ	7	7	4	5	13	9	19	14	10	5	2	2
504 ハシホトカリ	8	7	12	7	2	6	3	2	5	6	3	5
B トハト		5						1		1		
出現総羽数	272	195	209	106	110	208	126	50	48	109	96	130
種類数	19	16	15	17	16	14	13	12	11	15	10	17

## 13. 片倉城跡公園

小池一男

1995年 月*日	1*21	3*5	4*2	4*29	6*3	7*2	7*30	8*27	9*30	10*28	11*25	12*30
開始 時:分	7:00	7:00	7:30	7:00	5:30	6:00	6:00	6:30	6:30	7:00	7:30	7:40
終了 時:分	10:00	10:00	10:00	10:00	8:00	9:15	8:50	9:40	9:00	9:45	9:40	10:10
天候 (前後)	晴	晴	曇	曇	曇	曇小雨	晴	晴	曇	晴	晴	晴
調査報告者	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K
040 カウ	3	2										
057 タイキ		3					2				1	
059 コサ	1	1	2		1	2		7	1	2	1	
062 アサキ											1	
088 カカモ	18	19	15	22	8	12	30	14	27	46	38	12
089 コカモ	11	6	9	10							2	7
130 サハ									1			
149 コシユキ				3	2	2	2	2	3		2	2
296 キノハト	5	11	10	8	8	8	8	9	7	8	9	7
326 カセミ										1		
331 アケラ				2	2			2	1			
339 コケラ	6	4	3	6	2	4	4		5	4	5	5
344 ヒバリ				2								
347 ツハメ				24	17	14	13	6				
350 イワツハメ						4	4					
354 キセキレイ		2					1		2	2		
355 ハセキレイ	2	1	2	1	2	1		1	1	3	2	2
356 セウロセキレイ	5	2	4		1	2	2	1	3	4	1	1
367 ヒヨトリ	15	14	11	30	23	18	33	21	26	29	32	32
369 モズ	3		1						3	3	2	
387 ジョウビタキ										2	1	
405 ツグミ	5	6	4	5								4
410 ウグイス	2	2	2	5							2	5
427 キセキレイ				1								
432 エゾビタキ									1			
435 エカ	2	6	10		5		5					5
440 ヤマガラ	6	15	9		7		5	3	6	4	6	4
441 シジュウカラ	14	24	19	24	17	18	22	7	13	17	18	15
444 メジロ	4	10		13	6	4	12	7	8	7	11	12
449 ホシロ		2					1			1	1	
455 ガラタカ	1	13	1									
461 アオ	2	4	2								2	3
471 カシロ	57	11	5			6	2			14	17	9
486 シメ			2									
488 スズメ	55	61	36	45	46	45	35	36	36	34	38	31
493 ムクドリ	12	6	31	12	22	22	6	7				11
496 カス										2		2
498 オカ				9	9	8	1	2	3	10		12
503 ハシホトカラス	12	13	5	8	6	6	6	8	11	8	7	6
504 ハシホトカラス	3	2	4	4	2	4	2	2	3	4	2	2
A アヒル	1	1	1	2	1	1	1		1	1	1	
B トハト	4	31	11	16	6	8	19	33	8	24	16	9
出現総羽数	249	272	199	252	193	189	216	168	170	230	218	198
種類数	25	27	24	22	21	20	23	18	22	23	25	23

## 14. 長沼公園

馬場裕B、馬場百合亜b、今井達郎I、木村正子K、保坂林、原田佳世H

1995年 月*日	1*21	2*18	4*1	4*22	5*22	6*24	7*16	8*20	9*27	10*21	11*18	12*17
開始 時:分	10:10	8:10	9:00	8:40	9:30	9:00	9:00	7:30	15:30	8:20	8:10	8:00
終了 時:分	13:40	12:30	12:10	11:50	12:40	12:05	12:30	10:25	17:30	12:00	12:00	12:00
天候 (前後)	晴	晴	晴	曇小雨	曇	晴曇	曇雨	晴	晴	晴	晴	晴
調査報告者	Bb	BbIK林	Bb	Bb	Bb	Bb	Bb	Bb	b	Bb	BbH	BbK
088 カカモ				2	4							
120 ト		2	1		1							1
145 ヨウウツノ											1	
149 コシユケイ	1	2	8	6	7	1	7	2	1	4	7	
296 キンハト	28	25	3	10	14	4	10	8	9	10	11	10
302 カコウ						1						
320 アマツバメ						1						
331 アケラ	3	1		1	1		3	1	1			
336 アケラ	1	1										
339 コケラ	18	8	4	16	9	3	8	3	1		7	16
344 ヒバリ										6		
347 ツバメ				4	11	6	12	3				
350 イワツバメ				2		8						
354 キセキレイ	1		1		4	1	2		1	1		1
355 ハクセキレイ		1										
356 セウロセキレイ		1			2							
360 ヒノズイ		2	2	2							2	2
367 ヒヨドリ	29	25	44	34	55	41	55	29	13	46	46	34
369 モス	2	1	4							7	5	
380 コマドリ				1								
386 肩ヒタキ	4	5										2
387 ショウヒタキ	1	1	2								3	1
402 シロハラ	1	3		2								
405 ツクシ	10	9	2	6							10	6
409 ヤブサメ				4	2	2	2					
410 ウグイス	5	7	8	14	9	9	10			1	11	15
422 センダイソウ				1								
424 キウイタキ	10	4	8								1	
427 ヒタキ							1					
430 オオトリ				1	1							
435 イナガ	36	12	10	13	24	2				14	24	19
439 ヒカゲ	2	10	5		4							
440 ヤマガラ	21	13	14	9	7	3	1	3		5	12	6
441 シンユウカ	36	30	31	17	24	31	20	16	4	48	44	36
444 シノ	23	5	24	23	15	21	33	7	5	33	33	31
449 林シロ	5	14	17	10	7	7	9	2		7	7	11
455 カラタカ	14	29	4								3	15
461 アオシ	26	17	5	7						4	25	33
471 カササギ	40	32	3	11	10	5	3	1		5	8	15
472 マヒ				23								
483 ウソ	2	1										
486 シメ	6	4		9	1					1		
488 スズメ	18	36	30	15	68	92	37	21	10	30	6	22
493 ムクドリ	8	7	5	5	17	17	1					3
496 カラス	2	4								2	3	6
498 オナガ		3	15		4							
503 ハシノカラス	5	7	23	11	11	4	7	12	3	4	18	13
504 ハシノカラス	5	6	36	8	7	5	5	3	10	19	9	6
出現総羽数	361	328	309	267	319	265	226	111	58	247	296	304
種類数	30	34	26	29	26	22	19	14	11	19	23	23



# 鳥信 (1995年後半)

## 1. 冬鳥の初認

087・マカ <sup>ト</sup> モ	95.10/01	2羽	浅川・一番橋～多摩川合流	門ロー雄・裕子
089・コカ <sup>ト</sup> モ	95.09/10	3羽	浅川・滝沼橋上流100m	川上恚
093・ヒト <sup>リ</sup> カ <sup>ト</sup> モ	95.10/24	7羽	浅川・大和田橋下流水管橋付近	小山万太郎
093・ヒト <sup>リ</sup> カ <sup>ト</sup> モ	95.09/23	2羽	多摩川・浅川合流付近	阿江範彦
095・オカ <sup>カ</sup> モ	95.09/23	2羽	浅川・大和田橋～長沼橋	湯原直彦・ひろみ
097・ハシ <sup>ロ</sup> カ <sup>ト</sup> モ	95.10/10	2羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
230・タシ <sup>キ</sup>	95.11/18	1羽	北浅川・松枝住宅50m上流川岸	河村道寛・洋子
245・ウリカ <sup>ト</sup> モ	95.10/29	2羽	浅川・長沼橋付近	湯原直彦・ひろみ
245・ウリカ <sup>ト</sup> モ	95.10/14	1羽	多摩川・浅川合流付近	柚木鎮夫・育子
246・ヒ <sup>ロ</sup> カ <sup>ト</sup> モ	95.11/04	1羽	浅川・ふれあい橋付近	小山万太郎
363・ヒ <sup>ハ</sup> リ	95.11/05	1羽	浅川・長沼橋～一番	山崎悠一・久美子
369・モ <sup>ト</sup> 高鳴き	95.09/10	1羽	北浅川・陵北大橋～松枝橋	河村道寛・洋子
387・ショ <sup>ウ</sup> ヒ <sup>ト</sup> ク	95.10/22	♂1羽	八王子市川町・グリーンタウン高尾田地	今井達郎
405・ツク <sup>ミ</sup>	95.11/10	1羽	北浅川・東大沢橋下流50m	今井達郎
405・ツク <sup>ミ</sup>	95.11/10	2羽	大和田6丁目・住宅地の庭	小山万太郎
455・カラ <sup>ラ</sup> カ	95.11/10	2羽	北浅川・東大沢橋下流200m	今井達郎

## 2. 通過

320・アマツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/03	数10羽	多摩川・滝山城跡下・水田の上空	古山隆
320・アマツ <sup>ハ</sup> メ	95.10/05	18羽	小仏城山山頂	尾又英雄
346・ショ <sup>ウ</sup> ト <sup>ウ</sup> ツ <sup>ハ</sup> メ	95.08/30	8羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
346・ショ <sup>ウ</sup> ト <sup>ウ</sup> ツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/30	4羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
346・ショ <sup>ウ</sup> ト <sup>ウ</sup> ツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/30	16羽	小仏城山山頂	粕谷和夫
349・コシアツ <sup>ハ</sup> メ	95.07/02	1羽	浅川・高幡橋上流200m	門ロー雄
349・コシアツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/02	1羽	北浅川・陵北大橋上流300mの左岸・上空	今井達郎・馬場裕
349・コシアツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/02	2羽	浅川・日野市市民プール前	門ロー雄
349・コシアツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/23	1羽	多摩川・浅川合流点付近	阿江範彦
349・コシアツ <sup>ハ</sup> メ	95.10/10	5羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
350・ウツ <sup>ハ</sup> メ	95.09/21	4羽	小仏城山山頂	尾又英雄
399・クツ <sup>ク</sup> ミ	95.11/03	1羽	小宮公園	斎藤高昭
432・エ <sup>ノ</sup> ヒ <sup>ト</sup> ク	95.09/30	1羽	片倉城跡公園	小池一男
432・エ <sup>ノ</sup> ヒ <sup>ト</sup> ク	95.10/01	2羽	小仏城山山頂	粕谷他5名

## 3. 希少種

005・カイツ <sup>リ</sup>	95.12/09	1羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
058 チュウ <sup>キ</sup>	95.08/19	1羽	浅川・大和田橋下流側	湯原直彦・ひろみ
080・オ <sup>ハ</sup> ク <sup>ョウ</sup>	95.12/09	2羽	多摩川・浅川合流付近・親1、子1	谷井正剛
080・オ <sup>ハ</sup> ク <sup>ョウ</sup> 成	95.12/16	1羽	多摩川・浅川合流付近、他に同じ場所で幼鳥1羽死体	柚木鎮夫・育子
092・オ <sup>ト</sup> カ <sup>ト</sup> モ	95.11/19	1羽	浅川・城山川合流付近	福島弥四郎他6名
096・シ <sup>マ</sup> ツ	95.09/10	1羽	浅川・長沼橋上流70m	川上恚
097・ハシ <sup>ロ</sup> カ <sup>ト</sup> モ	95.07/02	1羽	浅川・高幡橋下流300m・越夏?	門ロー雄

160・ウケ	95.11/11	1羽	川口川・高尾橋下 粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一、井手龍世、杉森熊二・ユリ	
167・ハン	95.07/27	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
167・ハン	95.08/19	2羽	多摩川・浅川合流点付近	柚木鎮夫・育子
167・ハン	95.09/30	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
167・ハン・幼	95.10/01	1羽	浅川・高幡橋下流側100m	門口一雄・裕子
167・ハン	95.10/30	1羽	浅川・萩原橋～浅川橋右岸側釣り池上流の湧水の中	榛沢努
191 オシロウネ	95.11/12	1羽	浅川・長沼橋上流側下	探鳥会
46・セウロカメ	95.12/16	1羽	北浅川・陵北大橋～松枝橋	河村道寛・洋子
298・アオハト	95.09/30	1羽	小仏城山山頂	粕谷和夫
298・アオハト	95.10/07	6羽	小仏城山山頂	粕谷和夫
317・ヨカ	95.07/01	1羽	八王子市川町	今井達郎
349・コシアカツバメ	95.10/10	5羽	浅川・長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子
368・コトズ	95.07/02	1羽	浅川・多摩川合流付近ニセアカシアの林の中	門口一雄
375・カカラス	95.12/02	1羽	北浅川・東大沢橋下流300m	今井達郎、馬場裕
375・カカラス	95.12/10	1羽	北浅川・松竹橋付近	探鳥会
376・ミササギ	95.11/04	1羽	北浅川・深沢橋～松竹橋	馬場裕
386・ルビキ	95.12/17	2羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
388・ルビキ	95.10/29	1羽	浅川・新浅川橋上流側河原・冬羽	湯原直彦・ひろみ
396・トラツグミ	95.05/05	声	陣馬山山頂	今井達郎
409・ヤブサメ	95.07/16	2羽	長沼橋公園	馬場裕・百合亜
416・オヨシキリ	95.09/02	1羽	北浅川・陵北大橋上流300mの左岸・よく鳴く	今井達郎、馬場裕
416・オヨシキリ	95.09/10	1羽	北浅川・陵北大橋～松枝橋	河村道寛・洋子
424・キイタキ	95.11/18	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
427・ヒキ	95.07/16	1羽	長沼公園	馬場裕・百合亜
430・オオムシ	95.07/10	1羽	長沼公園	山崎久美子
434・サンゴウチョウ	95.05/14	1羽	恩方・駒木野沢上流の林道	山崎悠一・久美子
464・オシユリ	95.9~12月	2~3羽	浅川・鶴巻橋上流左岸河原	福島弥四郎他6名
464・オシユリ	95.12/02	10羽	北浅川・東大沢橋下流200m右岸藪の中	今井達郎、馬場裕
481・ヘビマシ	95.11/11	♂1羽	浅川・浅川橋下流200m右岸アシ原の中	古山隆
481・ヘビマシ	95.11/12	♂1羽	浅川・浅川橋下流200m右岸アシ原の中	福井司郎
ガビチョウ?	95.08/30	1羽	多摩川・滝山城跡下・水管橋上流500m右岸林の中、イカルとクロツグミとヒヨドリを混ぜたような大声で鳴いていた。全体が茶褐色、目の回りが白く縁取りされ、目尻から白く垂れている。タイリクホイビーかガビチョウか?	三好恒雄
タイリク化?	95.11/10	4~5羽	北浅川・松竹橋～深沢橋の右岸檜林の中、ムクドリ大、羽色は楳ね褐色、目の回りはメジロ様に白く、その白が後ろへ伸びる。ゲーゲーとけたたましく鳴き、ピーピーピーと小さな声で歌う。又フィーフィーフィーと大声でも歌う。箆抜けか	今井達郎

#### 4. ワシタカ

123・オオムシ	95.07/25	1羽	浅川・八王子市役所上空	福島弥四郎
123・オオムシ	95.10/30	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
123・オオムシ	95.11/04	2羽	北浅川・元木橋～河原宿橋	今井達郎、関根伸一、馬場裕・百合亜
123・オオムシ	95.11/04	1羽	浅川・日野市市民プールの前のアシ原	門口一雄・裕子

123・材効	95.11/22	1羽	浅川・鶴巻橋上空	三好恒雄
123・材効	95.12/10	1羽	北浅川・松竹橋付近	探鳥会
123・材効	95.12/16	1羽	北浅川・陵北大橋下流50mでコガモを捕らえ、右岸の木に止まる	河村道寛・洋子
125・ツミ?	95.08/12	1羽	浅川・日野市市民プール前	門ロー雄
126・ハイ効	95.09/30	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
126・ハイ効	95.10/10	2羽	北浅川・松竹橋付近	探鳥会
129・ノリ	95.09/21	1羽	小仏城山上空	尾又英雄
129・ノリ	95.12/16	1羽	北浅川・天使病院上空	河村道寛・洋子
129・ノリ	95.12/23	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
130・サハ'	95.09/30	1羽	片倉城跡公園・上空通過	小池一男
141・ハフ'サ	95.09/24	1羽	浅川・松枝橋~鶴巻橋	福島弥四郎他4名
141・ハフ'サ	95.09/30	1羽	小仏城山山頂	粕谷和夫
141・ハフ'サ	95.11/26	1羽	浅川・八高線鉄橋付近NITアンテナに止まる	湯原直彦・ひろみ
141・ハフ'サ	95.12/09	1羽	浅川・八高線鉄橋付近NITアンテナ	粕谷和夫
141・ハフ'サ	95.12/10	1羽	片倉城跡公園・上空通過	巣箱清掃チーム

## 5. シギ・チドリ

183・ムカ'ロ	95.08/12	47羽	浅川・日野市市民プール前~日野高校	門ロー雄
183・ムカ'ロ	95.08/14	6羽	浅川・一番橋の上流200m	山崎悠一・久美子
183・ムカ'ロ	95.08/19	2羽	浅川・長沼橋上流側・冬羽	湯原直彦・ひろみ
183・ムカ'ロ	95.09/02	66羽	浅川・日野市市民プール前~日野高校	門ロー雄
186・タ'リ	95.12/30	1羽	浅川・長沼橋上流側	丸山二三夫
186・タ'リ	95.12/31	2羽	浅川・長沼橋上流側	湯原直彦
189・トウ'ネ	95.08/25	4羽	多摩川・滝山城跡下	古山隆
189・トウ'ネ	95.09/03	4羽	多摩川・滝山城跡下	古山隆
191・オ'トウ'ネ	95.09/03	1羽	多摩川・滝山城跡下	古山隆
191・オ'トウ'ネ	95.09/05	1羽	多摩川・滝山城跡下	古山隆
191・オ'トウ'ネ	95.12/23	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
196・マ'シ'	95.08/30	8羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
196・マ'シ'	95.11/19	120羽	多摩川・浅川合流付近	阿江範彦
196・マ'シ'	95.12/03	1羽	浅川・一番橋~多摩川合流	門ロー雄・裕子
211・オ'ア'シ'	95.09/05	1羽	浅川・浅川橋上空を上流側から下流に向かって鳴きながら飛ぶ	古山隆
214・ウ'シ'	95.08/12	1羽	浅川・日野高校前	門ロー雄
214・ウ'シ'	95.10/30	1羽	多摩川・滝山城跡下	三好恒雄
230・タ'シ'	95.10/01	8羽	浅川・一番橋~多摩川合流	門ロー雄・裕子
230・タ'シ'	95.11/18	1羽	北浅川・松枝住宅50m上流の岸辺	河村道寛・洋子
230・タ'シ'	95.11/26	1羽	浅川・大和田橋~長沼橋	湯原直彦・ひろみ
230・タ'シ'	95.12/03	1羽	浅川・一番橋~多摩川合流	門ロー雄・裕子

## 6. 託卵鳥

302・カ'コ'	95.06/06	1羽	八王子市三井台緑地・声	井手龍世
302・カ'コ'	95.06/10	1羽	浅川・長沼橋・声	山崎悠一
302・カ'コ'	95.07/25	1羽	湯殿川・白旗橋~時田橋	三富恒男・智頭子
303・ツ'ト'リ	95.05/05	声	陣馬和田峠	今井達郎

304・朴トキス	95.05/08	1羽	高月城跡頂上、ウグイスと競囀	井手龍世
304・朴トキス	95.05/29~08/15	1羽	西寺方町	今井達郎
304・朴トキス	95.07/02	声	北浅川・大沢橋~陵北大橋	今井達郎、馬場裕

## 7. ねぐら

347・ツハメ	95.09/05	蚊柱状	多摩川・18時頃滝山城跡下水田の上空、近くに増か?	古山隆
347・ツハメ	95.08/05他	約1,000羽	多摩川・八高線鉄橋上流付近・ねぐらか?(別掲)	粕谷和夫

## 8. 繁殖

005・ガツアリ	95.07/15	親子	多摩川・浅川合流付近・親1、子1	阿江範彦
005・ガツアリ	95.09/23	親子	多摩川・浅川合流付近・親1、子1	阿江範彦
052・ゴイサキ	95.07/30	1羽	浅川・新浅川橋付近・巢材運び	湯原直彦・ひろみ
052・ゴイサキ	95.08/19	雛数羽	浅川・中央線鉄橋付近の竹藪でヒナの声	湯原直彦・ひろみ
059・コサキ	95.08/19	雛数羽	浅川・中央線鉄橋付近の竹藪でヒナの声	湯原直彦・ひろみ
151・キジ	95.07/09	親子1組	北浅川・陵北大橋~松枝橋・2羽の子連れ	河村道寛・洋子
339・コガラ	95.4~5月	1番	小宮公園東・幹にキノコの生えている枯れ木・4/29穴掘り、5/5~5/14抱卵の様子、5/26巣立ち後の模様	大川征治
354・セキレイ	95.07/15	親子	川口川・山王橋下・親1、子1	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一
354・セキレイ	95.07/23	1番	高尾森林センターキャンプ場・2階の窓と看板の隙間に営巣	真塩智野
355・ハセキレイ	95.08/14	親子2組	浅川・長沼橋~一番・親1、子3と親1子4	山崎悠一・久美子
356・セウロセキレイ	95.07/15	親子	川口川・高尾橋付近	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一
367・ヒヨドリ	95.07/15	親子	川口川・高尾橋付近	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一
367・ヒヨドリ	95.07/16	親子	長沼公園・親子連れ	馬場裕・百合亜
367・ヒヨドリ	95.07/30	親子	片倉城跡公園・親1、子1	小池一男
367・ヒヨドリ	95.08/20	親子	長沼公園・親子連れ	馬場裕・百合亜
441・シシユウガ	95.07/15	親子	川口川・唐犬橋~高尾橋	粕谷和夫・鈴木章七、川戸恵一
441・シシユウガ	95.07/16	親子	長沼公園・親子連れ	馬場裕・百合亜
441・シシユウガ	95.08/20	親子	長沼公園・親子連れ	馬場裕・百合亜
444・ツノ	95.07/16	親子	長沼公園・親子連れ	馬場裕・百合亜
488・スズメ	95.05/10~05/31	1番	八王子市みつい台・屋根裏に営巣・3羽巣立ち	井手龍世
488・スズメ	95.06/10~06/25	1番	八王子市みつい台・屋根裏・同じ巣2回目の営巣2羽巣立ち	井手龍世
488・スズメ	95.07/16	親子	長沼公園・親子連れ	馬場裕・百合亜

## 9. 行動

062・アサギ	95.10/01	1羽	浅川・日野高校前でテグスを1m位たらししていた	門ロー雄・裕子
062・アサギ	95.09/23	1羽	浅川・中央線鉄橋上流側・ハシブトガラス2羽にモビングされる	湯原直彦・ひろみ
326・カモ	95.10/14	1羽	川口川・唐犬橋付近・止まっていたところへ飛んできたトンボを捕まえて喰う	粕谷和夫
355・ハセキレイ	95.11/18	1羽	浅川・浅川橋付近・飛んでいるトンボを捕まえて喰う	粕谷和夫
498・村ガ	95.08/12	群	川口川・高尾橋付近・ケヤキの大木にいた何匹ものアブラゼミを襲う→アブラゼミが逃げ出す	粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一
503・ハシブトガラス	95.12/10	1羽	北浅川・松竹橋付近・胡桃の実をを約10mの高さにくわえ上げ、砂利敷きの空き地に落とす。6~7回繰り返すも実が割れずに諦	

める。空中から落とすときは片足をクチバシに持って行ってかきおとす様なしぐさ。1羽だけで周りに他のカラスは不在。探鳥会

## 10. その他

カ'カ'14 95.07/15 声 川口川・高尾橋上流側 粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一  
仔 95.07/15 1頭 川口川・坂口橋付近 粕谷和夫、鈴木章七、川戸恵一

(参考)八王子市西寺方町・グリーンタウン高尾団地に隣接する山に1羽(1番?)のホトトギスが3年連続飛来した。その初認・終認記録は次の通りである(今井達郎報告)。

1993年 初認06/09・終認08/25  
1994年 初認05/25・終認08/14  
1995年 初認05/29・終認08/15

### 鳥信をお寄せ下さい

1人1人の断片的な情報でもこれを数年にわたり寄せ集めると貴重な資料になります。渡り鳥の初認・終認、希少種の観察、ねぐら、繁殖、行動等何でもかまいません。報告内容は①年月日、②野鳥名、③羽数(♂♀別、冬羽・夏羽別、親・若・幼鳥別等解れば内訳を)、④場所、⑤観察者名を必ず記載のこと。更に、観察した場所の環境、一緒にいた別種の鳥との比較、声、行動・仕草、希少種の場合は同定した理由等の記載があればベター。必ず①から⑤をメモにして郵送(〒192八王子市天神町3-6)、探鳥会時等に手渡し、又は電子メール(Nyfty serve ID\*QYH00707)で、随時、粕谷和夫にお届け下さい。

### 『冬鳥一斉調査について』

毎年1月の年次総会当日、午前中に行われる浅川を中心とした冬鳥の一斉調査は、今年(1996)は1月14日(日)に行われました。当日は67名の会員が調査に参加され、62種、11,615羽がカウントされました。因みに、過去6年間の記録は次のとおりです。

年 度	1996年	1995年	1994年	1993年	1992年	1991年
総羽数	11,615	11,917	12,787	13,557	12,825	11,356
種類数	62	61	60	60	59	60
内カワセミ	33羽	19羽	16羽	14羽	24羽	13羽



## 平成7年浅川流域のイワツバメ営巣調査

(取りまとめ：粕谷和夫)

この調査は1987年から毎年行っているもので本年度で9年目となった。調査方法は前年までと同じで、5月から7月の間に2回、今年利用している巣の数をカウントして、多かった方をその場所の営巣数とした。浅川流域を川筋別に16に分割し、その他に谷地川と大栗川を加えて行った。調査区域別の担当者と結果は次表の通りである。

流域別	調査区域	担当者	営巣数
①北浅川	大沢橋～陵北大橋	今井達郎、関根伸一・光世	0
②浅川本流	陵北大橋～松枝橋	河村道寛・洋子	0
③ "	松枝橋～鶴巻橋	福島弥四郎、清水茂、福井司郎	12
④ "	鶴巻橋～大和田橋	榛沢努、田中英吉	3
⑤ "	大和田橋～長沼橋	湯原直彦・ひろみ	0
⑥ "	長沼橋～一番橋	山崎悠一・久美子	20
⑦ "	一番橋～多摩川合流	阿江範彦	26
⑧川口川	川口橋～明治橋	古山隆	0
⑨ "	明治橋～浅川合流	三好恒雄	8
⑩南浅川	案内橋～敷島橋	川上志	51
⑪ "	敷島橋～浅川合流	小池一男、川上志	60
⑫城山川	月夜峰新橋～浅川合流	木村晴美、小沢礼子	0
⑬山田川	山田橋～浅川合流	門口一雄・裕子	148
⑭湯殿川	白旗橋上流	横山由美子	8
⑮ "	白旗橋～時田橋	三富恒男	0
⑯ "	時田橋～浅川合流	加藤岸男、三富恒男	101
⑰谷地川	宮下町～多摩川合流	粕谷和夫	12
⑱大栗川	遣水～横倉橋	木村信幸・明子	36
	計		485

営巣箇所について過去5年間の推移は次表の通りである。

イワツバメの営巣数 (○内数値は前表の流域別に対応)

単位：巣数

	1991	1992	1993	1994	1995
②松枝住宅 (A)	9	2	0	0	0
③北浅川中央高速道橋 (B)	16	0	12	13	12
④浅川曉橋 (B)	21	22	17	11	3
④浅川浅川大橋 (B)	6	6	0	0	0
⑥浅川大和田橋 (B)	7	0	0	3	0
⑥浅川JR中央線橋高架 (C)	0	0	0	1	0
⑥浅川長沼橋 (B)	10	6	3	0	0
⑥浅川滝合橋 (B)	0	9	19	19	20
⑦浅川一番橋 (B)	2	12	6	0	1
⑦浅川高幡橋 (B)	0	0	5	20	25
⑨川口川関守橋 (B)	0	4	0	4	8
⑩京王高尾山口駅 (C)	7	20	13	15	20
⑩京王高尾駅 (C)	20	20	20	10	18
⑩東浅川小学校 (A)	0	0	1	5	13
⑪私立八王子高体育館 (A)	-	-	-	100	50
⑪南浅川東横山橋 (B)	0	0	4	2	7
⑪都立八王子工高体育館 (A)	8	8	13	6	3
⑬JR八王子駅 (D)	117	100	120	120	148
⑭はさま住宅 (A)	-	-	-	27	7
⑭めじろ台ハイム (A)	-	-	-	0	1
⑯JR片倉駅 (C)	5	12	14	10	12
⑯片倉小学校	0	0	0	4	0
⑯片倉サンライズ幼稚園	8	10	25	0	0
⑯兵衛川横浜線橋 (C)	3	4	0	0	4
⑯湯殿川打越大橋 (B)	0	0	2	11	4
⑯湯殿川時見橋 (B)	0	0	2	2	2
⑯北野ハケシタビル (A)	X	0	0	11	10
⑯京王北野駅 (C)	31	58	56	54	69
⑯京王長沼駅 (C)	0	0	0	1	0
⑰中央高速石川西児童公園 (C)	-	-	-	15	5
⑰谷地川西野橋 (B)	-	-	-	0	1
⑰谷地川八方地橋 (B)	-	-	-	1	2
⑰谷地川万年橋 (B)	-	-	-	0	2
⑰谷地川新鶴見橋 (B)	-	-	-	0	2
⑱京王南大沢北 (C)	-	-	-	16	17
⑱アメニティトリアル多摩21 (D)	-	-	-	16	4
⑱京王堀之内駅 (C)	-	-	-	0	5
⑱大栗川峯が谷戸橋 (B)	-	-	-	10	10
⑱大栗川横倉橋 (B)	-	-	-	2	0
合計	15	15	16	28	30
営巣箇所数	270	293	332	509	485
営巣数					

(A) コンクリート建物  
 (B) コンクリート道路橋下  
 (C) コンクリート鉄・道路高架下

(D) その他  
 (-) 未調査  
 (X) 人の破壊等による放棄

# 平成7年、我が家の庭に来る野鳥調査結果

(取りまとめ：粕谷和夫)

平成7年は市街地7名、郊外12名、計19名がこの調査に参加した。結果は次表の通りで、市街地の庭には22種(平均12種、最少8種、最多16種)、郊外の庭には28種(平均13種、最少6種、最多20種)であり、全体では28種の飛来を記録した。この内、全ての庭に来た野鳥はキジバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、スズメの5種で、1軒にしか来なかったのはコジュケイ(井手)、ホトトギス(山崎)、ハクセキレイ(木村)、セグロセキレイ(峯尾)、ルリビタキ(小笠原)、シロハラ(木村)、ヒガラ(井手)の7種であった。小笠原(片倉町)のルリビタキは3月に庭でメジロを眺めていた時に飛んで来て千両の実を啄んだところを観察したものである。

1995年・我が家の庭に来た野鳥調査結果

	市街地							郊外										合計・ 総数					
	尾又英雄	粕谷寿美子	小池一男	清水茂	田中英古	峯尾良雄	三好恒雄	小計・ 総数	井手龍世	今井達郎	小笠原敏子	川上恵	北平章	木村正子	久保田ヤス子	志村進	永見博子		馬場夫妻	三富恒男	山崎夫妻	小計・ 総数	
149 コジュケイ								7	●													1	1
296 キジバト	●	●	●	●	●	●	●	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	19
302 カクウ							●	1	●								●				●	3	4
304 ホトトギス																					●	1	1
339 コウラ			●				●	5			●						●	●				5	10
347 ツバメ	●		●					2	●		●	●	●	●	●					●		7	9
354 セキレイ						●		1				●										1	2
355 ハセキレイ														●								1	1
356 セグロセキレイ						●		1														1	1
367 ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	19
369 スズメ			●			●	●	3	●		●	●	●	●	●		●	●		●	●	6	9
386 柳井'タキ											●										●	1	1
387 ショウビ'タキ	●		●	●	●	●	●	6	●	●	●	●	●		●		●	●		●	●	10	16
402 シロハラ															●							1	1
405 ツグミ		●	●		●			4			●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	9	13
410 ウグイス	●		●			●		3	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	8	11
439 ヒガラ									●												●	1	1
441 シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	19
444 メジロ	●	●	●	●	●	●	●	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	19
449 村ジロ									●		●						●				●	4	4
461 アオジ						●		1			●				●		●	●	●	●	●	5	6
471 カササギ	●	●	●		●	●	●	6	●		●	●		●	●	●		●	●	●	●	9	15
486 シメ	●				●	●	●	4			●	●			●	●		●	●	●	●	4	8
488 スズメ	●	●	●	●	●	●	●	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	19
493 ホトトギス		●	●	●	●	●	●	5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11	16
498 オカ			●	●				3			●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	5	8
503 ハクセキレイ			●				●	2	●		●							●	●	●	●	4	6
504 ハクセキレイ	●						●	2	●		●	●		●			●	●			●	5	7
トバト			●					1													●	1	2
種類計(種)	12	8	14	9	10	16	15	22	20	6	17	16	10	18	13	7	13	15	11	16	28	29	

この調査で庭での繁殖行動は5種で観察され、その内容は次の通りである。

種名	件数	具体的内容
キジバト	3	粕谷(6月・営巣途中放棄)、三富(7月・営巣、巣立)、山崎(10~11月・晩秋の営巣、巣立)
ツバメ	2	清水(5~6月・営巣、巣立)、川上(6月・途中放棄)
ヒヨドリ	1	小笠原(8/25~9/5・親1、子4羽連れ)
シジュウカラ	4	今井(3~5月・営巣、巣立)、川上(4~5月・営巣、巣立) 北平(8/14・親子連れ)、志村(5月・営巣、巣立)
スズメ	1	井手(4~6月・営巣、巣立)

また、庭の木の実・花や給餌台に来たものは次の通りである(実際にはもっと多くあったと思われるが、記録として報告されたものだけを記載した)。

種類	具体的内容
ブルーベリーの实	ヒヨドリ(7月、今井)
ピラカンサの实	ヒヨドリ(11月、今井)、ヒヨドリ(12月、川上)
千両の实	ルリビタキ(3月、小笠原)
ウメモドキの实	ヒヨドリ・メジロ(11月、川上)
サンショウの实	ジョウビタキ(12月、馬場)
梅の木の中の虫	コゲラ(12月、馬場)
ミカン(給餌)	メジロ(12月、今井)、メジロ・ヒヨドリ(1~2月、粕谷)
ヒマワリ(給餌)	シジュウカラ・カワラヒワ(1~3月、11~12月、粕谷)
パンくず(給餌)	ヒヨドリ・スズメ(1~3月、粕谷)

### 南北浅川の合流地の河原に都市公園？

八王子市広報第863号(1998年1月15日付け)の1面に八王子市役所前の浅川右岸河川敷(南北浅川合流付近)を都市的公園として整備するとの誇らしげな記事が大きく載った。鶴巻橋を挟んでその上下流の河川敷の自然を壊し、芝生広場や催しもの広場や人工的な散策路を作るというものである。

河川敷(河原)は「河川を構成する重要な部分」である。建設省が多自然型川作りで提唱しているように、「河川は本来有している生き物の良好な生育環境の場であり、周辺の環境と結びついた美しい自然環境を保全或いは創出する場」である。ここは北浅川、城山川、南浅川の3川が合流する自然豊かな場所である。この河川敷に税金を使って本来の自然を壊した都市的な公園を作ることに疑問を持たざるを得ない。どうしても公園的なものを作りたいのであれば、浅川の本来の自然を生かした多様な生き物のためのサンクチュアリにすることを提案したい(粕谷和夫記)。

## ヒメアマツバメの動向 (95年6月~12月)

東浅川の京王線高架下コロニー(下記の1.)は94年末に分散した。今期の動向は次の通りです。このデータは観察者によって観察日に確認されたことだけを取りまとめたものです。1. 東浅川京王高架下は復活ならなかったが、新たに4. 京王線高尾山駅東側高架下で2巣発見された。

1. 東浅川京王線高架下(川上憲調査)・・・94年末迄6年間継続した所
  - 8月14日・夕 帰巣確認できず(5月6日に6羽帰巣確認一部復活かと思われたが、やはり放棄か?)
  - 9月9日・夕 帰巣確認できず(今回も確認できず、放棄か)
2. 東浅川小学校(川上憲調査)
  - 9月9日・夕 帰巣確認できず(屋根裏のツバメの巣の中央部1個に羽毛が一杯着いたヒメアマツバメの巣はあるが利用していないように思われる)
3. 京王線高尾山駅西側ホーム高架下(川上憲調査)
  - 9月8日・夕 使用中と思われる巣4個有り、5羽帰巣確認(18:10~18:15)
  - 11月5日・夕 " " " " (16:55~16:57)
4. 京王線高尾山駅東側高架下・新発見(川上憲調査)
  - 7月23日・昼 使用中のツバメの巣約40個の中に使用中と思われる巣2個発見
  - 9月18日・夕 使用中と思われる巣2個有り、2羽帰巣確認(17:30~18:05)
  - 11月29日・夕 " " " " (16:20~16:50)
5. 八王子高校体育館高床の下・ピロティ(川上憲調査、7/23は他に横山由美子、久保田ヤス子)
  - 7月18日・夕 使用中のツバメの巣約80個の中に使用中と思われる巣約22個有り、27~30羽帰巣確認(18:30~18:50)
  - 7月23日・朝 6羽の出入りを観察、育雛中かと思われたが、雛確認できず(9:00~9:30)
  - 9月10日・夕 使用中と思われる巣約30個有り、約30~35羽帰巣確認(18:12~18:20)
  - 11月25日・夕 " " " " (18:35~18:45)
6. 浅川・中央高速道橋下(福井司郎・雅美調査)
  - 7月22日・朝、夕 使用中と思われる巣2個有り、2羽出巢(5:30~6:05)、1羽帰巣確認(18:18)
  - 8月12日・夕 " " " " (17:54~18:06)
  - 8月13日・朝、夕 " " " " (5:55~6:38)、3羽帰巣確認(17:44~18:38)
  - 9月23日・夕 " " " " (17:45~17:50)
  - 9月30日・朝 " " " " (6:00~6:58)
  - 10月15日・朝、夕 " " " " (6:29~7:03)、3羽帰巣確認(17:09~17:26)
  - 11月25日・夕 使用中と思われる巣1個有り、2羽帰巣確認(16:21~16:28)
  - 11月26日・朝 使用中と思われる巣1個確認、ツバメが巣にちょっかいするとヒメアマツバメが顔を出した
7. 浅川・浅川大橋下(田中英吉調査)
  - 未調査
8. 南大沢駅北(木村信幸調査)
  - 6月25日・朝 使用中のツバメの巣約40個の中に使用中と思われる巣6個有り、8~10羽出巢確認
  - 8月14日・朝、夕 使用中と思われる巣8個有り(2巣増)、約10羽出巢(5:00~5:55)、約13羽帰巣確認(18:40~18:55)
  - 12月3日・朝、夕 使用中と思われる巣6個有り(2巣減)、9羽出巢(6:40~8:21)、10羽帰巣確認(16:14~16:41)



## ハクセキレイの集団ねぐら

### (1) 八王子市横山町三角広場（田中英吉調査）

1990年以来、毎月1回継続して行っている日の出前の集団ねぐら（ヤマモモ及びクスノキ）からの朝の飛び出し数のカウント調査、今期（95年7月～12月）の結果は次の通りです。7月に10本のヤマモモ、クスノキ全部が整枝され、枝数、葉数が極端に少なくなりましたが、そのための影響は特に受けなかったようです。

（単位：羽）

時間	3:31	4:01	4:31	5:01	5:31	6:01	6:30	合計
年月日	↓ 4:00	↓ 4:30	↓ 5:00	↓ 5:30	↓ 6:00	↓ 6:30	↓ 7:00	
95'7.29		8						8
8.29			7					7
9.25			14	47				61
10.31				5	270			275
11.28				132	92			275
12.30						181		181

### (2) 八王子市北野町西東京三菱北野ショップ（粕谷和夫調査）

こちらは日の入り直後の夕方、ねぐら（クスノキ3本）入り数を2回カウントした。結果は次の通りです。ねぐら入り調査は、ねぐらへの出入りが何度か繰り返されるため、カウントに正確さを欠き、概数となります。

11月24日 16時40分～17時00分 約380羽

12月9日 16時30分～17時00分 約300羽

### 中小河川環境実態調査報告書（浅川編、南浅川編、川口川編）まとまる

東京都環境保全局（水質保全部水質監視課）は平成5年度に浅川7ポイント、南浅川3ポイント、川口川3ポイントについて、水質、低質、低生動物、付着藻類、魚類、植物、その他の動物、河川構造、景観、その他について調査を行い、平成7年3月付けで報告書を刊行した（A4版）。浅川水系における野鳥の生息環境を知るうえで貴重な資料である。本書でも「浅川本川や支流をコンクリート等で固めないことが重要である」と指摘しているが、このことが同じ東京都の建設局にも通じることを願ってやまない。

# 片倉城跡公園の巣箱状況

(宮城県吉野町) 設立後三周年山形市千代八(1)

平成元年(1989)1月に巣箱を架設して7年が経過した。平成7年12月10日、本年の利用状況調査と巣箱の清掃を会員有志が行った。7年間の利用状況と本年の結果を以下に示す。

## 1. 周囲状況

八王子市建設部公園課が管理する都市公園で面積は39,272m<sup>2</sup>である。湯殿川に面し、湧水池・湿地・コナラ等の雑木林を配した丘陵地で、頂上は芝生広場となっており、比較的自然環境の良い公園である。

## 2. 7年間の利用状況

年次	巣箱数	利用数	利用率
1989	14	3	21%
1990	13	4	31%
1991	14	8	57%
1992	14	7	50%
1993	23	9	39%
1994	25	11	44%
1995	24	16	67%

## 3. 本年の利用状況の概要

### (1) 巣材

利用した巣材は昨年と同様にコケ(トヤマシノブゴケ・ハネヒツジゴケ・ミズシダゴケ)が多く、その他シュロと犬の毛があった。特にヤマガラが繁殖に利用した巣箱はシュロがたっぷりと使用されていた。

### (2) 繁殖に利用

シジュウカラが利用したものは8個(No. 1, 5, 8, 9, 11, 48, 50, 52)、ヤマガラが利用したものは3個(No. 14, 42, 45)あった。

### (3) 巣穴の被害

本年もキツツキ(アオゲラかコゲラか不明)による穴の拡大2個(No. 7, 44)が認められた。

#### 4. 個別の巣箱利用状況

個別の巣箱についての利用状況を次表に示す。

表 7年間の利用状況

番号	巣箱提供者	繁殖・ねぐら利用回数 経過年	1995 利用状況	
				状況
1	門口 一雄	5回 / 7年	○	ねぐらとしても利用
3	阿江 範彦	3回 / 7年	×	
4	斉藤 高昭	4回 / 7年	△	
5	清水 茂	2回 / 5年	○	竹製、破損のため廃棄
6	藤江 豊	1回 / 7年	×	アリが巣を作っていた
7	平沢 辰夫	1回 / 7年	×	穴の拡大
8	川上 恚	4回 / 7年	○	
9	粕谷 和夫	4回 / 7年	○	ねぐらとしても利用
10	三好 恒雄	1回 / 7年	△	
11	坂東 達也	6回 / 7年	○	ねぐらとしても利用
13	田中 英吉	5回 / 7年	×	
14	榛沢 務	4回 / 7年	○	ヤマガラが繁殖に利用
41	今井 達郎	1回 / 3年	△	紙製
42	川戸 恵一	2回 / 3年	○	ヤマガラが繁殖に利用
43	川戸 恵一	1回 / 3年	×	塩ビ
44	小笠原敏子	1回 / 3年	△	穴の拡大
45	小笠原正顕	2回 / 3年	○	ヤマガラが繁殖に利用
46	大関 豊	2回 / 3年	×	
47	山崎 悠一	2回 / 3年	△	
48	馬場 裕	3回 / 3年	○	
49	三富 恒男	1回 / 3年	×	
50	湯原 直彦	3回 / 3年	○	
51	粕谷 和夫	2回 / 3年	×	塩ビ
52		1回 / 1年	○	

(注) ○：繁殖に利用。△：ねぐらに利用。×：繁殖に利用しなかった。  
穴の拡大：キツツキに穴の周辺をつつかれて出入口が拡大されたもの。

# 1995年秋のサシバ渡り調査結果

(本年は20羽、過去3カ年で最低)

取りまとめ：粕谷和夫

秋のサシバの渡りの八王子ルートは滝山丘陵方面に現れ、八王子市内から高尾山周辺の上空で上昇気流を捉えながら旋回上昇し、1,000m以上の高度に達した後、一直線になって石老山の方へ向かって飛ぶことが過去2年の本会の調査で推定出来た。

本年は小仏城山山頂で、通過するサシバ、ハチクマの数をカウントすることをねらいに調査を実施した。結果は第1表の通りで、9月21日から10月7日迄の間、正味8日間、延べ32名の会員が参加し、20羽のサシバを観察した(ハチクマは1羽も観察出来なかった)。本年も含め過去3カ年の結果をまとめたものが第2表であり、本年は最低の結果であった。

第1表 1995年小仏城山山頂における秋のサシバ渡り調査結果

調査月/日・天気・時間	サシバの通過時刻・羽数・飛行方向	調査参加者
9/21木・晴	0羽	尾又 9/23馬場裕
9/23土・曇・8:45~14:50	0羽 注) 9/30の( )内は片倉城跡公園の観察(小池)である	粕谷、今井、井手、小池、山崎夫妻 木村正、古山、小沢姉妹、桑原、
9/30土・曇・8:35~14:45	(8:00・1羽西へ)、10:26・1羽西へ	粕谷、原田、小谷野、橋詰、(小池
10/1日・曇・8:37~14:30	12:38・5羽西へ、13:29・1羽西へ	粕谷、今井、古山、山崎夫妻、橋詰
10/3火・晴・10:26~15:15	11:23・2羽南へ、11:45・3羽南へ、12:45・2羽南へ	橋詰
10/5木・曇・9:30~15:30	0羽	尾又、橋詰
10/6金・曇・12:00~15:30	14:18・2羽南へ	橋詰
10/7土・曇・8:28~14:30	10:40・1羽南へ、12:42・2羽南へ	粕谷、山崎悠、橋詰、山口
計	20羽	延べ32名

第2表 秋のサシバ渡り年次別通過数(八王子カワセミ会調査分)

	サシバ通過総数	調査期間	正味調査日数	延べ調査員数	調査場所
1993年	100羽	9/26	1日	24名	滝山丘陵、八王城跡、陣馬山、 高尾山金比羅台
94	90	9/17~10/10	10	58	松枝住宅、八王子霊園、景信山
95	20	9/21~10/7	8	32	小仏城山

なお、このような調査は近隣でも毎年行われているので、日本野鳥の会東京支部、同埼玉県支部、同神奈川県支部、同甲府支部、府中野鳥クラブに対し調査に関する情報交換を依頼したところ、東京支部研究部から連絡があり、当該支部におけるワシタカ調査の担当者として吉邨隆資氏が紹介された。その結果、吉邨氏から第3表のような調査結果が寄せられた。また、10月1日には吉邨氏が石老山、同支部の古山氏が高尾山で調査をしていて、本会6名の小仏城山班とお互いに無線連絡を取りながら調査をすることが出来た。

第3表 吉邨氏から提供があった1995年サンバ渡り調査結果の抜粋

観察者	観察日・天気	観察地	通過したサンバの数
吉邨隆資	10/1・曇時々晴	石老山・大明展望台	16羽
	10/8・曇	〃	2
吉山敏雄	9/28	高尾山・露台展望台	0
	9/30	〃	0
	10/1	〃	0
	10/5	〃	0
	10/10	〃	41 (芳賀氏の結果と同一)
芳賀	10/4・曇後晴	高尾山・露台展望台	2
	10/7・曇	〃	72± (遙か遠方のものが殆ど)
	10/10・曇	〃	41 (高尾山上空12羽の効柱含む)

注) 他のワシタカのデータは割愛した。原データには時刻、飛行方向、高度等の記載があるが、ここでは日単位の合計だけを掲載した。なお、吉山氏のデータは吉邨氏への私信であり、芳賀氏のデータはNifti-serveに掲載されたものとのことである。

本会の調査結果が本年は20羽と少なかったこととして、次のことが考えられる。

- ①本年は観察日が天候に恵まれなかったため(観察日が曇りの日が多く、典型的なサンバの渡り日和に遭遇しなかった)
- ②観察場所が1カ所だったため(昨年、八王子霊園と松枝住宅屋上の2カ所から無線連絡しながら同一個体をうまく捉えることが出来なかった。本年も10月1日、石老山、高尾山、城山の3カ所で無線連絡しながら同一個体(群)を確認できなかった。このことから観察場所が1カ所では捉える個体数も少なくなるのではないと思われる)
- ③本年は渡りの時期が遅かったのではないと思われる(本会は10月7日で調査を打ち切った。しかし吉山氏の調査で見ると10月10日になって観察されている)

次にルートについて、昨年までは高尾山方面から小仏城山を通り石老山方面に向かうと考えていたが、今年の調査結果からこの他に高尾山方面から小仏城山の上を通らずに南の方面に向かうものがあることを確認した。このことに関し、吉山氏も10月10日の観察で2つのコースを飛んだと報告している。1つは小仏城山上空を通るコース、もう1つはそれより南の甲州街道沿いを通ったとのことで本会の記録と一致している。また吉邨氏は高尾山、城山周辺には3本のルートがあるのではないかと推測している。

- A.北コース 滝山城趾→八王子城趾→小仏城山→
- B.中央コース 東高尾丘陵→高尾山→
- C.南コース 南高尾丘陵→石老山→

秋のサンバの渡りの調査の3年目を終わって、当初考えていたより①わたる時期の年変動が大きいこと、②ルートが複雑であること、③観測漏れが生ずるような高い所を飛んでいる群がありそうなこと等が分かってきた。今後の調査課題は多いが、本会以外のところともデータ相互交換の道も開かれたので、来年以降の調査が楽しみである。



## 城山川上流の野鳥調査

八王子カワセミ会が従来から行っている城山川での野鳥調査は冬鳥一斉カウントやカルガモ親子調査等で、場所は月夜峯新橋から下流の北浅川合流点迄である。城山川も他の支流と同様に大規模な河川改修が行われていて、今迄に元八王子2丁目の中央高速道橋迄はコンクリート化されてしまっている。現在、その中央高速道橋の上流側も改修計画が具体化し、着工寸前となっている。この地域は城山川の右岸が多摩御陵に接する場所で自然環境が豊かな所である。このような場所で何故、河川改修を急ぎ、コンクリート化しなければならないのか理解に苦しむところである。当会としても、1994年6月にも改修を行うとしても現況の豊かな自然が壊されないように配慮をして欲しい旨の要望書を東京都に提出しているところである。

今般、この場所で中央高速道橋を境に上流側の未着手地区（城山大橋迄）と下流側の改修地区（しんどう橋迄）に分けて野鳥の現況分布調査を行った。調査は1995年5、8、11月の3回行い、当会が行っている他の野鳥カウント調査と同様、川沿いをゆっくりした早さで歩き、川を中心に両幅約100mに出現した野鳥を種類別にカウントするものである。結果は次表の通りで3回まとめて見ると、延べ出現回数は未着手地区40回に対し、改修完了地区は25回、また出現種類数は未改修地区22種に対し改修完了地区16種という結果であった（調査担当：川上恵、文責：粕谷和夫）。

城山川、河川改修未着手地区と改修地区における野鳥調査結果  
未着手地区：城山大橋～中央高速道橋、改修地区：中央高速道橋～しんどう橋

	5月		8月		11月		1995年	
	未着手地区	改修地区	未着手地区	改修地区	未着手地区	改修地区	未着手地区	改修地区
088 カカキ	4羽	羽	2羽	11羽	9羽	15羽	3回	2回
089 コガモ					4	4	1	1
296 ヲシロ	7		8	6	4	6	3	2
326 カササギ				1				1
347 ツルメ	2	6	8	4			2	2
354 ヒトリシロ	2		6	2	2	3	3	2
355 ヒトリシロ			1	1	6	4	2	2
356 ヒトリシロ			2			3	1	1
367 ヒトリ	8	5	12	2	7	4	3	3
369 ゴキウ					1		1	
387 ショウビト					1	3	1	1
405 クミ					2		1	
440 ヤマガラ	1						1	
441 シメウツ	6		4		6		3	
444 オシロ	2						1	
449 林シロ			1				1	
471 カササギ	4			1			1	1
488 スズメ	20	10	30	15	50	70	3	3
493 ムナリ	7	5	25		11		3	1
498 オカ		2	5		3		2	1
503 ヲシロカラス					4	2	1	1
504 ヲシロカラス	4	4	4				2	1
B トガ	3						1	
出現総羽数	66	32	104	32	101	99	40	25
種類数	12種	6	12	8	13	9	22種	16

## 多摩川のツバメのねぐら調査

粕谷和夫

日本野鳥の会東京支部の会報「ユリカモメ」1994年11月号に多摩川の立日橋～JR中央線鉄橋付近にツバメのねぐらの記載があった。ツバメは巣立ち後の8月頃から河原のアシ原に集団でねぐらを作る習性がある。多摩川の立日橋付近にねぐらが有るのであれば八王子付近にも有るに違いないとねぐらを定め、8月～9月に5回調査を行った（内、1回は浅川・南北浅川合流付近）。結果は集団ねぐらが有ることは突き止めたが、その場所を特定するまでには至らなかった。

### 第1回調査（1995年8月5日、17時～19時）

まず、多摩川の谷地川合流付近にねぐらを定めて調査した。18時30分過ぎ、西の方に向かう幾つものツバメの群を発見したので、その方向へ移動した。多摩川の八高線鉄橋付近に上空を飛び交う約1,000羽の群がいた。この付近にねぐらがあるのではと思ったが、辺りが暗くなってきた19時前から姿を消してしまった。どこへ行ってしまったのであろうか。

### 第2回調査（1995年8月12日、18時～19時）

最初から多摩川の八高線鉄橋付近（右岸、流域下水道処理場付近）へ行った。18時30分、約20羽のツバメが現れ、同45分頃に約1,000羽になり、上空、低空を飛び交った。しかし、19時頃、暗くなるとどこかへ消えてしまい、代わりにコウモリ約10頭が現れた。今回は懐中電灯を持ってきたのでアシ原を探したが、ツバメはどこにもいなかった。

### 第3回（1995年8月18日、17時40分～19時）

対岸の昭島市クジラ公園に行き、八高線鉄橋下の中州で待った。18時30分頃、大きなツバメの群が次々と八高線鉄橋を越えて更に西方の上流方面へ飛んでいくのを確認した。ねぐらは八高線鉄橋より更に上流側に有るものと推定した。

### 第4回（1995年8月19日、18時30分～19時）

日没時に浅川の南北浅川合流付近でヒメアマツバメ7羽が盛んに飛び交っていたのでしばし観察していた。これは19時頃、暗くなって来るとどこかへ消えてしまった。この間、ツバメが5羽、10羽、20羽と集団で頭上を通過し多摩川方面へ飛んで行くのを見かけた。浅川流域のツバメも多分多摩川にねぐらをとっているのではないかと思った。

### 第5回（1995年9月10日、16時30分～18時30分）

多摩川の八高線鉄橋から上流側にねぐらを定めて約500m上流の取水堰迄の間を何回も往復しながらツバメを待った。初秋の夕、日没時刻もだいぶ早くなり、あっという間に日が暮れてしまったという感じで、この日はツバメが20～30羽飛び交った程度で結局ねぐらを特定できなかった。

今年は1人で行った調査のため、多摩川のように広い場所では限界があった。来年はアマチュア無線を使って、数名でこの調査を取り組んでみたい。一緒にやりませんか。

# 清水公園及びその周辺の川口川の野鳥観察記録

北平章

平成7年に年間を通して清水公園（八王子市犬目町）及び10～12月に隣接する川口川（清水公園橋付近）で野鳥観察を行った。概要は次の通りで、この観察は今後も継続する予定である。

## 1. 清水公園（八王子市犬目）

- ①冬鳥（例としてツグミ1/27～4/25, ジョウビタキ11/3～2/10）、夏鳥（カッコウ5/27～7/17）が季節毎に現れる。
- ②春から秋にかけてオナガやヒヨドリが多く見られる。繁殖による増加が。
- ③川口川の護岸工事の影響が、追われたカワセミが清水公園の池に時々姿を見せる。

## 2. 川口川（清水公園橋付近）

- ①下流側には雑草が生えて繁みが増加し、水草もあり、水鳥が戻りつつある。上流側は未だ工事のため野鳥の姿は少ない。
- ②コガモがまとまって公園橋付近に10月末に飛来したが、その後下流に分散したらしい。③カモ類の一部が12月末に清水公園の池に移動しているのが認められた。

観察記録の内、希少種と思われるもの

### 1. 清水公園

- 1月 1/10\*コゲラ、モズ、アオジ、ジョウビタキ、シジュウカラ、  
1/18\*シメ、1/27\*ツグミ、1/28\*カワセミ、コガモ、モズ
  - 2月 2/10\*アオゲラ、ツグミ、ジョウビタキ、コゲラ、シジュウカラ  
2/20\*アオゲラ、ツグミ、モズ、2/27\*アオゲラ、シメ、ツグミ、ハクセキレイ、シジュウカラ
  - 3月 3/13\*カワセミ、ツグミ
  - 4月 4/4（ハク木蓮、コブシの花が満開）\*アオゲラ、モズ、シジュウカラ  
4/19,20\*ツグミ、4/24,25\*ツグミ、4/24\*アオゲラ
  - 5月 5/23\*オナガ、5/27\*カッコウ
  - 6月 6/3,5\*オナガ、6/10\*カッコウ、6/15\*カッコウ、オナガ、コゲラ  
6/26\*オナガ（ゴミ集荷所のゴミをカラスと食べている）
  - 7月 7/12\*カッコウ（夕方久しぶりに鳴き声を聞く）、7/17\*カッコウ（今年最後だった）
  - 8月 コゲラとオナガ、繁殖したため多くなる
  - 9月 9/3\*カワセミ（上の池・川口川明治橋の方へ飛ぶ）、オナガ多し、  
9/21\*カワセミ（下の池・川口川の方へ飛ぶ）
  - 10月 10/17\*キセキレイ、コゲラ
  - 11月 11/3\*ジョウビタキ♀、11/21\*アオジ、セグロセキレイ、コゲラ
  - 12月 12/14\*ジョウビタキ、モズ、コゲラ、  
12/21\*カルガモ2羽、コガモ8羽、オナガガモ2羽、マガモ1羽（いずれも池、川口川から避難か）
- （その他）シジュウカラ、コゲラは年間を通じて見られる。オナガは春先から秋まで周回している。上記以外の他にキジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシボンガラスが多い。

### 2. 川口川・清水公園橋付近

- 10月 10/16\*コガモ10羽、カルガモ4羽、10/17\*キセキレイ、コガモ7羽、10/20\*コガモ30羽、  
10/21\*コサギ、キセキレイ、10/23\*セグロセキレイ、ハクセキレイ、モズ、
  - 11月 11/2\*コサギ7羽、モズ、オナガ、キセキレイ、セグロセキレイ、11/6\*カルガモ（求愛ディスプレイと交尾）、11/8\*カルガモ8羽、コガモ24羽、セグロセキレイ4羽、ハクセキレイ1羽、マガモ1羽、  
ハシボンガラス4羽、キジバト2羽、スズメ30羽、  
11/27\*セグロセキレイ3羽、キセキレイ1羽、コガモ32羽、カルガモ20羽、オナガガモ6羽、コサギ1羽
  - 12月 12/1\*セグロセキレイ2羽、コサギ2羽、コガモ38羽、カルガモ10羽、オナガガモ8羽、マガモ3羽、ハクセキレイ2羽、アヒル1羽
- （その他）楯原中学校の北側は水鳥のサンクチュアリのようだ。しかし、川口川は護岸工事が行われていて、工事をやっている所は両岸がコンクリートになり水量も極端に減って、カワセミが全く姿を消してしまった。

注）原稿には詳細な地図が添付されていますが割愛させて頂きました。清水公園は八王子市犬目町にあります。

## 針の木峠を越えるアサギマダラ

粕谷和夫

1995年8月15日、大沢小屋を朝6時に出発し、針の木大雪渓を登った。大沢小屋は大町・黒部アルペンルートの扇沢から歩いて1時間半の所、針の木雪渓の入り口にある。昨夜この小屋に泊まったのはもう1人の単独行の登山者と合わせて2人だけであった。大雪渓を登りながらメボソムシクイ、ルリビタキ、ウグイス、ヒガラ、ホシガラス等の声を聞き、峠付近では高山植物の写真撮影を楽しんだ。

峠の上にある針ノ木小屋に着いたのは9時30分、一休みした後、峠に立って槍ヶ岳等の山並みを見ていると、上空に現れた1頭の蝶を双眼鏡が捉えた。よくみるとアサギマダラである。針ノ木雪渓の方から飛んで来て、峠の上では小屋の屋根より少し高い程度の高度であったが、稜線を越えた途端羽ばたき飛翔から帆翔に変えて、旋回しながら上昇し、その後船窪岳から槍ヶ岳の方面へ一気に飛んでいった。この間、約3分。アサギマダラが渡りをすることは知っていたが、標高2,500m級の針ノ木峠のような高い所を飛んで行くのに遭遇し、しばし感動してしまった（上昇気流を捉えて旋回上昇し、その後目指す方向へ一直線に飛んでいくパターンは秋のサンバの渡りとそっくりであった）。

翌8月16日は蓮華岳に登った。頂上付近は広々としていてそこに咲いている見事なコマクサの大群落の中にライチョウ親子が現れた。親1、子3羽のファミリーだ。下りも針ノ木雪渓のルートを取り、ルリビタキ、コマドリ、ウソ等の声を聞くことができた。ゆったりした探聴山行であった。

### 1995年、1年間に見た野鳥の種類数

昨年は11名の会員から報告がありました。1年単位で自分が見た鳥の種類を整理しておくことは、パードウオッチング・ライフの基本です。今年もそれぞれ自分なりの目標を決めて多くの鳥との出会いを楽しみにしましょう。12月には多少に係わらず報告をお願いします（粕谷）。以下は、会員が1995年の1年間に見た野鳥の種類数です。

島崎太郎	84種、	丸山二三夫	88種、	井手龍世	102種、
田中英吉	105種、	三好恒雄	166種、	粕谷和夫	169種、
山崎久美子	194種、	山崎悠一	197種、	河村洋子	202種、
馬場裕	228種、	古山隆	242種		



## ウォッチング・コーナー

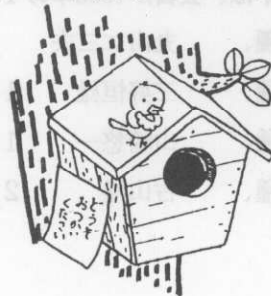
### ・・野鳥を通して学び得たこと・・

「公開探鳥会のお知らせ」を市広報で見て、「大和田橋から長沼橋」の探鳥会に参加させていただいたのが、私たちと八王子カワセミ会との最初の出会いでした。その探鳥会の時に、長沼橋百メートル上流の左岸にカワセミがいつも居ることを教えていただき、暇があればいつもその場所にカワセミを見に行っていました。それまでは、神奈川支部・奥多摩支部・東京支部の探鳥会に時々参加して楽しんでいました。八王子カワセミ会の皆さんの顔もまだよく知らなかった時にも関わらず、事務局の門口さんから「機関誌です。まだ渡していなかったですよ」と声をかけて下さったり、毎月葉書で「今月の例会案内」をして下さって、とてもうれしかったことを覚えています。特に、横須賀から八王子に越してきて、まだ間もない頃だったので、八王子の人と顔見知りになったり、八王子のことを知ることができたのも喜びでした。

鳥を通して自然とふれ合う機会が多くなり、そのふれ合いの中で自然からいろいろなことを学ばせていただきました。生活が便利になることや合理的になることが良いことのように単純に考えていた時期もありました。でも我々も自然の一部であり自然の法則の中に生かされている存在であるかぎり、自然と共存しながら地球の一員として生きていかなければならないと思っています。

夫婦共に学生時代から続けていたアマチュア無線（日本アマチュア無線連盟から昨年30年表彰）がカワセミ会の連絡に貢献できたり、パソコン通信を開始して鳥情報を収集したり、鳥の話題で職場内でのコミュニケーションの輪が広がったりと、カワセミ会が生活にいろいろな形で関わってきております。

今思い返せば、入会してしばらくは毎年の総会や遠距離の探鳥会に参加しなかったことだけが残念に思います。今後もせっせと参加して鳥見の経験を積み重ねようと思っています。



山崎 悠一  
山崎 久美子



## 赤い鳥を探して（大雪山探鳥記）

年月日 平成7年7月21日～24日（3泊4日）  
コース 旭川空港……層雲峡……黒岳（泊）……北鎮岳……比布岳……永山岳……愛山溪（泊）……沼ノ平……旭岳ロープウエー……旭川（泊）……美瑛（白金野鳥の森）……旭川空港  
参加者 今井達郎 大関豊 田中英吉 馬場裕 山崎悠一 山崎久美子 柚木育子 門口一雄 門口裕子（9名）

### 大雪山探鳥の感想

#### 今井達郎

ノゴマに逢いたくて申込んだ大雪山探鳥です。さえずるノゴマの姿に満足していると、目の前にギンザンマシコの番が現れる。花盛りの高山植物に囲まれた探鳥は幸せ一杯であった。しかし、大石のゴロゴロした起伏の多い山路と、ドロコの湿地通過、冷い雪解け水の流れの渡渉など、8kgあまりのザックを背負っての山歩きは、苦しみもまた大きかった。最終日の「国設白金野鳥の森」では4～5羽のイスカに会うという幸運にも恵まれ、生涯の思い出となる探鳥行であった。

#### 大関豊

我ながら笑ってしまった大きな荷物。雪解け水が冷たかった沢渡り。二年前に買って初めて役に立った雨合羽。まるでサーカスの様に歩いた泥んこ道。大雪の大自然にそびえる旭岳。可愛かったシマリスとキタキツネの子供。そして赤い鳥、ギンザンマシコとイスカとの初対面。思い出多い登山となりました。

#### 思い出

#### 田中英吉

なんでもお金次第の世の中だけど、思い出はお金では買えない。人生は思い出の積み重ね、思い出こそ貴重な財産なのだ。とある小冊子に書いてあった。

今回の大雪山探鳥登山こそ私の最高の思い出になります。私にとって最初

の3日間連続の山歩きだからです。2日目のイズミノ沢の下りは疲れしました。3日目の泥沼の中、私も過去何回かこんな泥の中を歩いたが、今回は最悪。

冷たい川の中を何回も素足で往復して私たちを支えてくれた門口さん。大きな荷物を背負って最後尾を歩く大関さん。お二人ともお湯を有難うございました。重いフィールドスコープを担いで、鳥を見せてくれた山崎さん。転げそうになるとき背中をささえてくれた柚木さん。そのほかの皆さんにもお世話になり完歩出来ました。黒岳の「ギンザンマシコ」白金野鳥の森の「イスカ」の鮮やかな色、今でも目に浮かびます。

来年もまた皆さんの足手まといになろうかと今から考えています。その時はよろしく。

### 自省の大雪山登山

山を歩いて考えた。石を蹴り、泥を跳ね、草木を踏み、枝を引きちぎりながら大勢が行き交う。お花畑を分断している、広い道はもう元に戻るまい。機能食を持ち、糞便を撒き、風雨に備え、頑丈な靴などと高度な武装で何処へでも。せせらぎにさえ病菌をおそれ、喉を潤すを躊躇う。何が自然愛好だ。賢明な自然の利用とかエコツーリズムだのは嘘と見た。が、それでも森の花や鳥たちやは無邪気に美しかった。

### 北海道探鳥会

山崎悠一・久美子

早朝に家を出て、昼過ぎには北海道の山麓に來ているという事実に、全く驚いてしまいます。

赤い鳥を見たいというのが昨年からの目標の一つになっていたのですが、今回、ギンザンマシコ、ノゴマ、イスカの三種に出会えました。

1日目の泊まりは、標高2000mの黒岳石室で、2、3日前には霜が降りたそうで、気温は5°C。寝袋に入っても外からの寒気が身に凍みました。でも、朝口の中で『銀座の眞知子』ではなくギンザンマシコのつがいが地面でエサをあさっているのを間近で見て、その美しさに感動しました。昨日の夕方と2回も見る事ができて、まさにラッキーでした。

また、大雪山の岩場や花畑を歩いているとハイマツの中で、喉の赤いノゴ

マが鈴を鳴らすようにコロコロさえずっています。

花の美しさ、大自然の雄大さに、ひととき足を止めて浸っていました。途中ハイマツの中から出てくるキタキツネ、エゾリスなどにも出くわしました。

最終日には平地の雑木林である白金自然公園での探鳥でした。真夏であり北海道もやはり暑くて鳥たちも休んでいるのか全く姿を現しません。くたびれもうけかなと少しあきらめていた時、松の木の頂上にスズメより大きい鳥をスコープに入れ、思わず「これは何だ」と叫んでしまいました。すかさずのぞき込んだ柚木さんが「イスカだ」と声を上げ、今までの疲れがふっとびました。つがいでマツボックリの実をほじくり出してポロポロと破片を捨てながら食べ続けていました。本当に「イスカのはしのくいちがいだ」と感動しました。皆さんのおかげで素晴らしい探鳥旅行となりました。

#### 柚木 育子

13年ぶりの大雪は、少し雨に降られ、ぬかるみで、それでも北嶺岳から見たトムラウシがとても懐かしかったです。ギンザンマシコ（知り合いはこれをギンザノコマチと言う）と偶然のイスカに出合えて感謝 感謝、一拍半のマミジロのさえずりも印象的です。イスカは英名でそのままずばり cross billとなっていました。やっぱり日本名のがいいです。

#### 大雪登山探鳥記

#### 門口一雄・裕子

1年前の大雪山行。トムラウスから天人峽へ下山の途中、飛び込んで来た聞き慣れない野鳥の声に双眼鏡を向け、図鑑と見比べながらハイマツの中に見え隠れしているギンザンマシコのメスを見た。黒く太い嘴や朱色の雄は確認できないまま悔しい思いで下山した。あのギンザンマシコが忘れられず、今回の探鳥登山を計画した。

飛行機、バス、ケーブルと現代の交通手段を駆使して、北の大地に足を踏み入れて数時間。大雪山系黒岳山頂に立った私たちを歓迎するかのようにギンザンマシコのペアが姿を現した。しかも肉眼で確認出来る距離にいて、人間をあまり恐れない。登山道を行きつ戻りつ、右に左に飛び交い、太く短い嘴の中にコケモモ(?)の実をくわえ、それを器用に転がしながら朱色の胸を張る。標高2000mの山頂で1年ぶりに容姿を見せてくれた。

北海道の1日目は、シナノキンバイ、ウコンウツギ、ナガバキタアザミ…の咲き競うお花畑とその周りで美声を聞かせてくれたノゴマ。登山道にチョロチョロ現れ疲れを癒してくれるシマリス。夕食をねだるキタキツネ。乾杯の暇もなく冷たい夕立に洗われたが満足の行く一日であった。

2日目は大雪登山コースのハイライト、愛山溪までのロングランである。寒さのため少々睡眠不足ではあるが、気を引き締めて行くことにする。去年はエゾコザクラ、チングルマが咲き競っていたプロムナードであるが、今年は夏が遅く雪が解けたばかりで開花までには数日早い。石室を出て直ぐ、昨日と同じ固体と思われるギンザンマシコの番が登山道に現れる。続いてノゴマが、首を伸ばし日の丸の喉を震わせキョロキリ キョロキリと独唱する。登るにつれ雪渓が多く、怖々と渡りやっと北鎮岳の頂上に立った。風が強く寒い。雲間に間宮岳、北海岳…大雪の山々が見え隠れする。遙か眼下に今夜の宿の愛山溪温泉も見える。旭岳のカールを横目に比布岳、永山岳と先を急ぐ。ハイマツの長い下り坂が続き、目の前に明日のコースの沼ノ平が輝いている。しかし、昼過ぎのせいか野鳥の姿は見えない。歩行の速度は鈍り、一行の疲れもピークに達してきた。やっとの思いで喬木の林に辿り着いた。ヒグマに注意の立て札があり、大声で叫びたくなる。沢ぞいの平坦な登山道に出ると、人家の気配を感じた。マミジロやカラ類の鳴き声が耳に入り、さて、クマゲラを探るか元気が出てきたころ夕立があり、せき立てられるように愛山溪温泉に着く。疲れた体を温泉に浸しながら今日の辛かった山行を称え合った。

3日目 朝から雨足が強い。決行か打ち切りか判断に迷う。札幌からきた中高年グループの決行と午後は晴れるの予報に促され、雨の中を出発する。今日のコースは高原の散歩を予定していたが、雨と急登に悩まされる。登山道が小川となり、たんぼのような泥道となる。赤土は雨に濡れ滑り、笹に覆われた谷底のような道に悪戦苦闘の2時間が過ぎた。山の天気は変わりやすい。ノゴマの美声にせきたてられるように、雨雲の中に青空が覗き、眺望が開け、昨日苦戦した坂道が全容を現す。待望の大雪の散歩道の木道である。高原に夏空が戻り、大小の池塘の周りのナナカマド、カエデ、ワタスゲ…が夏の雨を吸い込み一斉に輝きだした。エゾキスゲが今が盛りと咲き競い、雪

溪の周りではエゾコザクラが短い夏を彩っている。行き交う登山者も少なく、静かな高原の木道に座り込み、時を忘れる。神秘的な高層湿原である。(アイヌ人の言うヌタクカムウシュッペである)

我に振り返りを急ぐ。ハイマツのトンネルで松ヤニの匂いを嗅ぎ、今日の難所の徒渉地にさしかかる。大雪の雪解け水や夜来の雨水を集め、川幅10数M、水深30数cm、流れは早く、水は冷たい。この名もない沢がやがて石狩川となり、北の大地を潤し日本海へ流れ込む源流だろうか。やっと渡り終え、旭岳を眺めノゴマを見つめながら快適な登山道を進む。橋がなく、泥道や急登があつた沼ノ平の自然を守っていることを話しながら、人込みの旭岳ロープウエー駅に着いたときは夏の太陽が大きく傾いていた。

4日目 最後は、美瑛の国設野鳥の森でクマゲラを探すことにする。暑さと、昨日までの疲れで、体が重い。平地の森は北海道も本州も同じだ。アカハラ、キビタキ、ヒガラ……見慣れた鳥ばかりだ。目当てのクマゲラを諦めて下山を始めてまもなく、誰かがイスカをみつけた。皆競うように双眼鏡で探し、望遠鏡で確認する。樹高30M位のトドマツの樹冠でマツポックリをむき、実をついばむ。大きな頭に短い尾、赤みがかつた体に黒い大きな嘴、その嘴の先端は上と下が確かに食い違っている。一見不格好であるが、「イカス」鳥である。4~5羽の群れをつくり、黄緑色の雌もいる。トドマツの木を次々と飛び交い食事に余念がない。

美瑛の丘はラベンダーの紫、ジャガイモ畑の白とピンクの花、乾燥した牧草のベージュ色等で形作られたモザイク模様の大地が続く。郷土の写真家前田真三の世界にひたり帰路についた。北の大自然を満喫し、魅せられ続けた4日間であった。

#### [確認した野鳥]

サメビタキ ノゴマ ギンザンマシコ ウグイス クロジ ミソサザイ  
キバシリ ハシブトガラス ルリビタキ コマドリ コゲラ ヒガラ コ  
ガラ エナガ キクイタダキ イワツバメ マミジロ キセキレイ ツツ  
ドリ ウソ イワツバメ セグロセキレイ ベニマシコ スズメ ハシボ  
ソガラス トビ シジュウカラ マガモ カワラヒワ カワセミ アカゲ  
ラ アヒル ドバト キビタキ アカハラ キジバト イスカ コサメビ  
タキ ワシタカ (ノスリ) sp (39種)



## 両神山登山と探鳥会 (7月29日-30日) 桑原文夫

7月29日、朝7時、八王子駅前に集合、参加者10名は、車3台に分乗して、日本百名山の一つに上げられている秩父の両神山へ出かけ、登山と探鳥会をしました。

途中、三峰口でブッポウソウの観察を計画したのですが、今年は現われていないとのことであきらめました。

両神山白井差口からの登山道は小森川の溪谷沿いに急な斜面の登り坂が続きました。2時間半ほどかけて登ると一位ガタワの分岐にたどりつき、右におれて清滝小屋への道を辿りました。

とにかく登るのに一生懸命で、コマドリ、キビタキ、マミジロなど野鳥の鳴き声が樹林のなかに聞こえるのですが、すがたを確認することは出来ませんでした。

夕方、清滝小屋の前では、杉の木の巣穴からモモンガが現われ、夕闇のなかに飛んで行きました。また、梅雨明け後10日間位しか姿が見られないというヒメボタルの舞う様子も見ることが出来ました。

暗闇の中でコノハズクの鳴き声が、谷間に響きはじめました。私は半分、夢見心地でコノハズクの鳴き声を聞きながら、8時半すぎ睡魔に襲われ、床に就きました。

30日、朝5時起床、6時、清滝小屋を出発、産泰尾根経由で両神社まで登りました。神社の境内には大木が何本もあり、それらの木々には小動物のすみかと思われる小さな穴がいくつもありました。夕暮れにでも来れば、コノハズクが観察出来るかも知れません。

神社から少し歩いたところで、ゴジュウカラを見つけました。木の幹を上にと下にと忙しく歩き回り、頭を下に向けて木に止まる姿も妙に可愛いく観察しました。

8時30分、両神山頂(1724m)全員無事に登頂できました。岩場、クサリ場と結構険しい山容をみせながらも、足もとには、レンゲショウマ、ハクサンオミナエシ、など美しい高山植物も咲いて、登山者の心を和ませる一面もありました。

今回、両神山登山をしながら数種の野鳥と高山植物の名前も、先輩の方々に指導していただき確認することが出来ました。

また、ただ山に登るのではなく、足もとに生える草花から、木々の梢まで、自然を観察しながらの登山の楽しみ方も、教えていただきま

した。

これからも、ご指導宜しくお願いいたします。

### 確認した野鳥

ウグイス、ホオジロ、ミソサザイ、オオルリ、キビタキ、コマドリ、コゲラ、マミジロ、ホトトギス、ヤブサメ、メジロ、コノハズク、トラツグミ、ヒガラ、コガラ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、ウソエナガ、ヤマガラ、キクイタダキ、メボソムシクイ、カケス、ルリビタキ、アカゲラ、アオバト、アオバズク、ハシブトカラス、

総計 28 種

### 参加者

粕谷、門口、今井、鈴木、山崎夫妻、馬場、小沢、原田、桑原、以上 10 名 皆さんお疲れ様でした。



# 鳥たちとふれ合い考えること!

甲 野 毅

私は入会してまだ間もないが、驚くことが数多くある。一つは会員の方達の鳥の識別能力である。はるか何十メートルはあろうかという目標物の発する小声を聞き逃さず、双眼鏡で捕らえ直ぐにスコープに納めてしまう。この間わずか数十秒、その上種類、雄雌の識別まで行ってしまう。この技にはただ々敬服するのみである。もう一つは身近な自然にこれほど数多くの鳥たちが生息していることである。私は大学時代に運動部に所属していたので、ふれあい橋付近のグラウンドに毎朝、朝練のために通っていた。だから当然のことながら川とは毎日対面していたのである。しかし川の存在は認知していても、そこで暮らしている鳥など一度も気にとめたことは無かった。ハトが群れて糞をして橋のタイルが汚れていることは判るが、草かげにカワセミがいるなどは夢にも思っていなかったのである。一般の人々の関心度などは、この程度のものなのでしょう。

こんな私は何故か現在専門学校で造園を学んでおり、今年の4月から公園を造る設計会社に行くことになりました。今の造園はビオトープと称して公園の中に自然を取り入れることが流行しているようです。ビオトープとは、簡単に言うと限定された地域の中に動植物が共存出来る空間造りのことである。それが今ブームとなり、公園を造る上では、これさえやっておけば安心というきらいがある。しかし植生のことは或る程度判っていても、その他の生物について知識をもっている人は余り居ないようである。であるので、出来上がるものもあまり感心されるものは数少ないのではないだろうか。鳥たちへの関心度もかなり高く「都会に小鳥を呼ぶ工夫をしました」などと声高々にうたわれている企画もあるが、都会の小鳥ってんな何なのだろう。スズメやハトやカラスなら何処にだっているのに、それじゃあまずいのだろうか。

話が長くなりましたが、こんな単純な疑問、鳥のことを知りたい、鳥の生態について知識を持ちたい…ということで入会するに到りました。こんな高い理想を掲げて探鳥会に参加する私は最初鳥を見たら、その生育している環境（植物や水の状態など）を観察するように努力していたのですが、今はただ女子高生がスマップを見て大騒ぎするが如く、そのシルエットに魅了されてしまって周りのことへまで気が配れていないのが現実です。

これからは、人間と鳥や動物などの自然が共存できるスペース造りを

目指して、理想は高く掲げていきたいと思います。

よく探鳥会が終了した後、復習と称して今来た川を戻りますが、先程までいた鳥たちを見ることができないのです。

それは川から鳥が姿を消してしまったからでしょうか。それとも私の腕が悪いからなののでしょうか！。

春　　う　　勢　　友　　靈  
光　　ら　　よ　　千　　峰  
や　　ら　　く　　鳥　　に　　友  
鷗　　か　　東　　向　　つ　　千  
の　　や　　風　　き　　づ　　鳥  
飛　　漁　　に　　一　　く　　御  
し　　る　　鷗　　閃　　に　　空  
よ　　鳥　　の　　に　　変　　や  
う　　に　　ひ　　る　　変　　わ　　青  
伸　　憩　　る　　が　　り　　鷹  
び　　う　　が　　え　　け　　鷹  
ち　　鳥　　え　　り　　り  
ち  
み

飯島洋子



## 海での観察～アオバトとの出会い～

—平成7年9月9日 大磯 照ヶ崎—

真 塩 智 野

今日は晴れ！ちょっとお日様が元気すぎかもしれないけど、バード・ウオッチングには、まあまあかな！？生まれて初めてアオバトを見るので私は、はりきって出かけました。月曜日はテストなのに……でも今年海に行っていないし、海での鳥の観察は初めてだから行っちゃえ！鳥の朝は早いのだ。でもめったに見られないものを見るのだから平気、平気！八王子駅からカワセミ会の方々と一緒に大磯の海岸へLeet's go

いよいよ海岸に来てアオバトを見ることになりました。でも説明を聞かなくちゃあ……アオバトを望遠鏡で見ていると、カニが見えました「カニだ！カニと言えば……海だ～遊ぶぞ！」私は海の中に足をつっ込んで空を見ました。そこにアオバトが飛んで来ました。私の真上を何羽ものアオバトの群れが飛んで行きます。思わず「きれい……」と感動してずっと見ていました。でもアオバトといっても色は母の好きな抹茶の様な緑色。何でミドリバトと名付けなかったのか少しだけ疑問に思いました。

その後、怪我をしたウミネコを見て、多摩川河口の鳥を見に行きました。今は怪我が治っていると良いのだけれど……河口の鳥はあまり見ませんでした。

「熱心な人は偉いなあ」と感心しましたが、私は近くにいた猫をかまったり、飛行機ウオッチングばかりしてしまいました(スマセン……)

今度のカワセミ会は、めったに見られない、今回のメインともいえるアオバトが見られて、とてもうれしかったです。

それに、行く時は内心(子供一人ジャン。どうしよう……)とと思っていましたが、皆さんがごく普通に接してくれたので楽しかったです。

おかげでストレスも発散出来ました。

最後に、アオバトくん達、姿を見せてくれてありがとう。  
これからも、ずーっと元気でいてね！

END





## 1. 福の神。

「ツバメが巣をかけると縁起が良い。」と言われていますが、この安曇野では特に「福の神がやって来た。」と言って、喜ばれている様です。昨年、その“福の神”が、我が家にもやってきて巣をかけ、そして子育てをしました。

六月半ばに、家の周囲を飛び回って、時々玄関を覗き込むように入出入りをしていいるツバメがいて、初め、虫でもいるのかと思いましたが、いつの間にか東屋根の軒下に巣を作り、七月に入って抱卵を始めました。そして七月二十五日、大雪登山探鳥から帰宅したら雛が四羽誕生しており、順調と思ったのですが、雛には厳しい試練が待ち受けていました。

昨年の日本列島は、梅雨が明けてから連日の猛暑で、ここ信州でも例外ではありませんでした。雛にとっては、生まれ出たタイミングが悪かったようです。観察して分かった事ですが、よほど暑いとみえ、涼を求めては巣から出、巣から出ると足を踏みはずし落下する、ということを繰り返し、気づいたものは巣に戻してやりましたが、一羽、二羽と減って結局巣立ちは一羽（二羽死亡、一羽不明）になってしまいました。要注意の時間帯は、午後一時過ぎから四時ごろで、雛は口を開けてグツタリとし、暑さとの戦いが始まります。この間、手をこまねいていたわけではありません。良い方法がないかと思案しましたが、結局人間の出来る事は落下防止のひさしを作る程度で、対症療法にしかすぎません。夕方になると涼しくなり、雛も元気が出てきて、ホッとしました。

今年はどうなるか気になるころですが、これに懲りずに帰ってきてほしいと願い、“福の神”を万全の構えで迎えたいと考えています。

## 2. カッコイイ鳥。

人は、鳥を見ていろいろな形容詞をつけます。どの鳥にどんな形容詞をつけるかは、その人の自由で、個性や感性が現れて面白いものです。時には、思ってもいない表現に感心することもあります。以前から写真などで見る限り、他に比べ貧相な顔をして、ちょっととぼけたような…、私にはそう思えたその鳥を、ある時、友人は「アレはカッコイイよ。」と言っていました。先日、突然、目の前に現れて、確かに…カッコイイ！と思いました。（次ページへ）

春と秋は渡りの季節で、夏鳥と冬鳥の入れ替えの時期でもあります。特に秋のワシタカの渡りは壮観で、愛知県伊良湖岬が有名ですが、ここ信州は白樺峠が知られるようになり、八王子でも「八王子カワセミ会」の調査で小仏城山のルートが判明されました。

昨年、縁あって白樺峠のワシタカ類渡り調査に参加しましたが、サシバ、ハチクマを筆頭に現れるそれは、まさに圧巻でした。多い日は、三千羽(9/20日)を超え、渡って行く彼らを見ていると季節の移り変わりや、自然の営みに今更ながら感銘し、生命の神秘さを思うのは私だけの感傷でしょうか。

気をつけて良く観察をすると、自分のすぐ近くを鳥たちは渡っています。白樺峠に集まる鳥たちは、いったい何処からやって来るのでしょうか。ちょっと気になって近くの山に行ってみました。穂高町に信濃三十三ヶ所霊場のひとつで二十六番札所満願寺というお寺がありますが、その先も林道が通っていて奥に入れます。安曇野が一望できる見晴らしの良い場所で観察を試みたところ、鉄塔のある峰に数羽のタカ柱を発見、渡りは身近にもありました。場所を覚えておいて下の道から見ると、安曇野の低山の峰にそって北から南に渡って行くサシバが観察されました。

さらに見やすい場所で観察しようと南に行き、常念岳の登山口である一の沢林道に入った時のことです。見当をつけた辺りで車を止めて観察を始めようと歩き始めた時、影がチラッとし何か居る気配を感じました。ふと見上げると大きな鳥が、すぐ頭の上を飛んでいました。トビよりちょっと大きめで、全体に白く、オオタカを大きくしたような印象の鳥でした。双眼鏡で見たら杵からはみ出す位の近さで(実際は、はみ出してなかったかも知れない?がそう見えた)羽はまるでマントを着けたように大きく、尾羽根を丸く広げ、羽ばたきもせず雄然と飛ぶその姿にしばらく動けませんでした。タカ符の斑点がきれいに並び、喉の筋も矢印のようにはっきり見えました。すぐ下にいる私の事など眼中にないらしく、風に乗ってゆったりと飛んでいます。クマタカでした。突然現れた、この珍客に驚きましたが、先頃、友人が言っていた「カッコイイ」と言うのが、まさに端的な表現であることを実感し、クマタカをとぼけ顔のタカさんと思っていた自分は、たいへん失礼したと反省した次第です。

イヌワシとクマタカは数も少なく、その生息は局所的で山深い所にしか見られないと聞いており、おそらく一生お目にかかる機会はないだろうと思っていましたが、イヌワシは白樺峠でその勇姿を見ましたし、クマタカもカッコイイ姿に出会う事ができました。信州に来てまだ一年足らずで両者に会えたことは、本当に運がいいと思います。

姫川は、溪流釣りでも有名で長野県の白馬村、小谷村を経て新潟県糸魚川市に入り、日本海に注ぐ。1995年7月、長野県北部を襲った集中豪雨の際、土砂崩れによるJR大糸線、国道148号線の寸断など小谷村を中心に大損害を被ったことは、まだ記憶に新しい。山を崩し、橋を流し、線路を曲げ、大暴れした川、それが姫川である。

大町市の仁科三湖の一つ青木湖を過ぎ、峠を越えて白馬村に入ってからすぐに姫川源流はある。源流と聞くと山奥を想像する。現地に行くまでそんなイメージを持っていた。ところが、国道の近くにひっそりと源流があった。こんこんと湧き出す清流、源流からちょっと下れば、田んぼがあり田舎の小川の風情で、のどかなものである。これがあの姫川の源流かと思うと不思議な面持ちになる。

姫川源流は、また、フクジュソウでも知られている。四月中旬～下旬の群落は見事で、実は当初これが目当てで出かけた。足を踏み入れると荒神社周辺に木々がうっそうと樹っており、その下にもフクジュソウやカタクリなどが咲いているが、源流周辺の木道に沿ってフクジュソウの群落があった。

このころ訪れると夏鳥にはまだ早い、カラ類やケラ類、カワセミ、キセキレイ、アオジ、ホオジロなどが見られ、そして渡りを控えた夏羽のカシラダカが囀っている。やはり時期は五月に入ってからが良い。夏鳥が姿を現わし賑やかになる。オオルリ、キビタキ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、コサメビタキ、ヤブサメなどが迎えてくれ、カシラダカもまだ囀っている。

姫川源流のすぐ隣に親海湿原（おうみしづげん）があるが、こちらもぜひ立ち寄ってみたい所だ。昔、湿田だったらしいが、今は木道があり散策できるようになっている。初夏のミツガシワ、六月のサワオグルマ、夏のサワギキョウ等が見頃らしいが、開けた場所でこちらには、ノジコ、オオルリがいた。また上空にはサシバ、ハチクマなどワシタカ類も現れるそうだから、木道から落ちない程度にたまには上を見て、見つけられなくとも、のんびり歩くには良い所である。

なお、フクジュソウの季節は、春といえどもまだ雪が残っているところもあるので、それなりの足まわりをしておいた方がよい。また源流周辺には、駐車するスペースがなく、国道の脇に駐車場がある。が、私は、ちょっと離れるが農地の中の広い農道におき、ぶらぶら歩いて信州の景色を楽しみながら現地に行くことにしている。モズ、カワラヒワ、セグロセキレイ等の声を聞きながら、晴れていればアルプス連山が顔を出すであろう。

（'95年10月記、大関）

【問題】 カモ達はそれぞれ何羽でしょう。

冬のある日、浅川のX地点でカモの調査を行いました。カウントの結果、カモの種類は6種で総数354羽でした。整理したところ、

1. オナガガモが一番多く、コガモはオナガガモの半分、ヒドリガモはコガモの半分、ハシビロガモはヒドリガモの半分でした。
2. また、一番少ないのは、オカヨシガモで、マガモはその2倍、カルガモはマガモの2倍でした。
3. カルガモの数を3倍するとオナガガモの数と同数でした。

さて、それぞれのカモは何羽ずついたのでしょうか？

答は次号No.17にて・・・お楽しみに！

【クイズ14号の答】

カモ達の比率が解ればしめたもの、一番少ないオカヨシガモを1とすれば、

オカヨシガモ	1	] であり総数を この比率で分 ければ良い。	] $354 \times 1 / 29.5 = 12$ 羽	
マガモ	2			$'' \times 2 / '' = 24$ 羽
カルガモ	4			$'' \times 4 / '' = 48$ 羽
オナガガモ	12			$'' \times 12 / '' = 144$ 羽
コガモ	6			$'' \times 6 / '' = 72$ 羽
ヒドリガモ	3			$'' \times 3 / '' = 36$ 羽
ハシビロガモ	1.5	$'' \times 1.5 / '' = 18$ 羽		

となります。





1996年の初頭に当たり、10周年を経過し、輝かしい活動と実績を積み上げつつある会員諸兄に敬意を表し、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

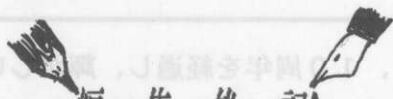
## ★ ブッポウソウに思う

私がカワセミ会に入った年の夏、斉藤さんに案内されて津久井湖で初めてブッポウソウを見たときの感激は今でも忘れられません、その後津久井湖にもブッポウソウは来ていないのでしょうか？

こちら信州の伊那谷でも、諏訪の上社の森に毎年来ていたブッポウソウも2年ほど来なくなり、今のところ毎年渡来・繁殖を確認出来るのは小渋ダムぐらいですが、此処の環境は津久井湖と同じアーチ橋の鉄骨の下側に空いている穴に営巣しているもので、この鳥の人工構造物への依存性が考えられ、本来は杉などの大木の樹洞に巣作りしていたものが様々な環境の変化と、それに対応してきている他の何種類かの鳥にも見られることで、興味ある問題として考えられます。

H7/6・21日、梅雨の合間の快晴に恵まれて09:30小渋ダム到着、橋の全景から探してみると一羽のチョウゲンボウが橋桁や近くの崖に止まったり飛んだりしているのが見えて、ひょっとしてチョウゲンボウも此処に巣作りしているのかと思い乍らブッポウソウをさがすも一向に姿も声もない。それに、此処は常に砂利トラの往来で名立たる街道、ひっきりなしに砂利や砂を積んだダンプがうなり声をあげて行き来して、おちおち三脚も立てておれない状態だ。これは昼休みまで待つしかないと判断して、大鹿村の奥まで足をのばして、12時に戻ってみると案の定ひっそりと静まりかえっている。橋に入ってアーチを見上げながら咳払いをした途端、ゲゲツという声と共にすぐ頭の上の鉄骨の下面にあいている穴から緑色の鳥が飛び出して、橋と平行に架かっている電線に止まってこちらの様子を見ながら羽づくろいをしたり、ひらひら舞って位置を変えたりしている。「出てくれて有難うヨ！ちょっと写真を撮らせてくれるかなー」とおもわず声をかけてスコープにカメラを取り付けて10枚ほどシャッターを押すことも出来、あまり邪魔しないように帰りかけた時、先程のチョウゲンボウが飛来、これをブッポウソウが迎撃、激しい声をあげて追い出す所まで観察、結局このチョウゲンボウはブッポウソウの巣を狙っていたものと納得したが、それにしてもこの頻繁なダンプの騒音と振動に耐え、チョウゲンボウの脅威に曝される環境を選択しての子育てかと思うとなんとも気の毒で胸が痛くなる思いだが、雛への給餌の出入りでなく、まだ抱卵中とみたが、なんとか繁殖に成功して、また来年も、いや毎年数を増やして来てくれることを祈る気持ちで帰路についた。




 編 集 後 記

♣ 1988年（昭和63年）8月、会報第1号を発刊してから足掛け8年になる。当時、会員の増加に伴い相互のコミュニケーションをはかる必要があるということで会報発行を提唱した編集子が、その担当を任されてしまった次第で、なにしろまったくの素人である。慈来、今日まで会長をはじめ会員有志の援助により何とか体裁を保ちつつ編集に携わってきた。生来面倒臭がり屋の性格が良くもここまでやってこられたものよ！と今更ながら感じている。今の形で良いか、もっと違った手法を取り入れる必要があるのではないかetc…いろいろ考え悩んだこともありました…が結局その性格がEasyに流れ、ワンパターの編集となり現在に至った…と反省し、この辺で新しいセンスを導入することにより、一層内容の充実と会員の期待に応える会報にしていくことが必要ではないか、と編集担当の交替をお願いし了承していただきました。次号（17号）から新編集者により会報が発行されます。永い間ご愛読？いただきましたことを感謝申し上げる次第です。

◆ 「日本のいわゆる発展は終わりで、あとはよき停滞、美しき停滞をできるかどうか。これを民族の能力をかけてやらなければいけない」と最近亡くなられた司馬遼太郎さんが、雑誌「現代」1月号の中で述べられている。醜悪としか云いようが無い今日の社会で起きている出来事に、日本を愛し日本人の真の姿を求めた作家の熱望を感じる。地球は人間だけで構成されているんじゃないんだ。自然との共生を今こそ求められている時代はない。  
「人と野鳥 ともに生きよう 浅川で」



T. M



Hachiōji  
Kawasemikai

カ　ワ　セ　ミ

1996年2月

—第 16 号—

発行人

粕谷和夫(八王子カワセミ会・会長)

編集人

三好恒雄

連絡先

八王子市中野上町5-29-3 TEL:0426-26-8634